

第5章 確認調査の概要

第8節 住吉中平野遺跡の調査

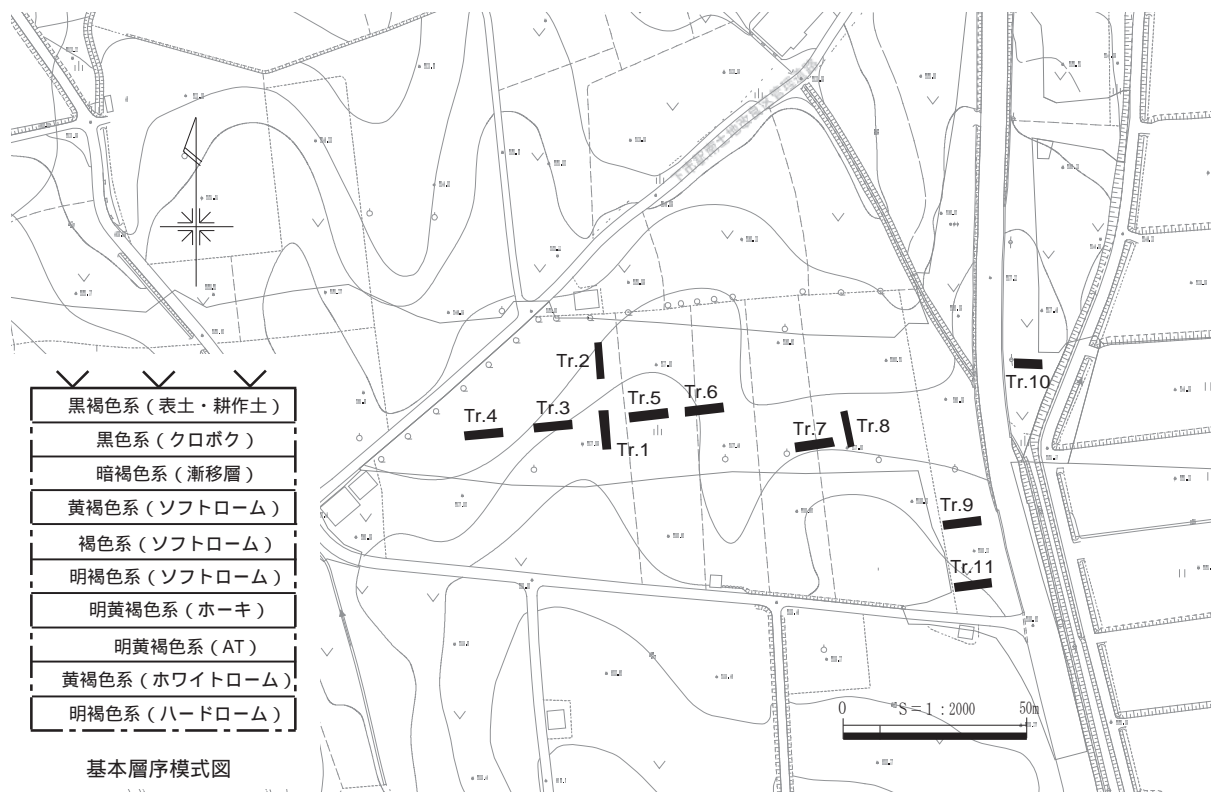
調査地点 大山町住吉358 - 114外

調査期間 平成21年7月22日～平成21年8月17日

調査面積 214m²

調査概要(第90図、表24、PL.32～33)

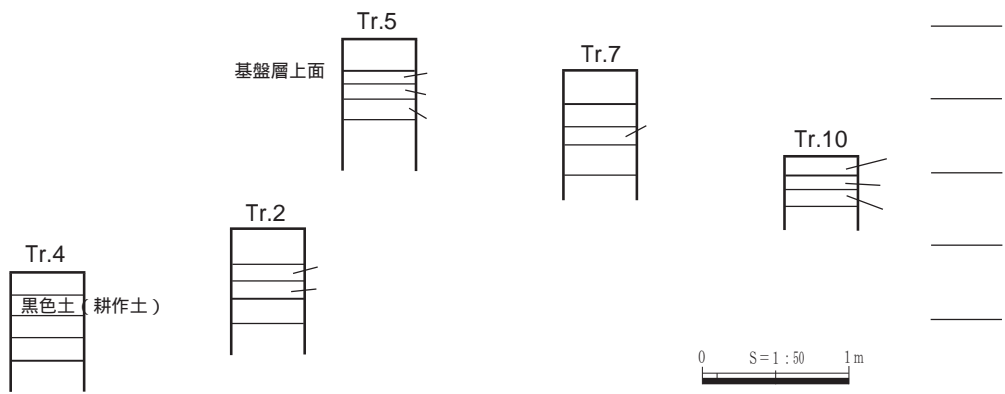
住吉中平野遺跡は、大山から日本海に派生する丘陵上に位置する。現地表面での標高は約57～58.5mであり、地目は、県道西側の大部分が果樹(ナシ)園で、県道東側は畑地である。調査は、開発



59.0m

58.0m

57.0m



第90図 トレンチ位置図および基本層序模式図

予定地内に11本のトレンチを設定して行った。調査地西側の浅い谷を挟んで西側の尾根上には、殿河内定屋ノ前遺跡が存在するほか、調査地の南側には弥生時代中期～後期の集落である退休寺遺跡および退休寺飛渡り遺跡が存在する。

調査地の現地形は、Tr.1やTr.5の辺りが尾根の頂部で標高が約58.5mとなり、そこから東西のラインに沿って緩やかに傾斜しており、調査地の最も西寄りのTr.4では標高が約57.0m、県道を挟んで最も東寄りのTr.10では標高が約57.5mとなる。ただし、Tr.7とTr.8の付近は、このラインのやや南側に当たり、若干標高が高くなる。また、Tr.1のすぐ北側のTr.2の標高は約57.0mであり、北側に向かって急傾斜することから、Tr.1の辺りが尾根の最北端と考えられる。

基本層序は、上層から順に、層が表土、耕作土または攪乱土、層がクロボク、層以下が基盤層である火山砕屑物堆積層で、層が層と層との漸移層、層がいわゆるソフトローム層である。Tr.2・4・9では、暗渠などによる攪乱もあるものの、部分的にこの層序を保っており、Tr.11でも基本層序の層が確認できたが、その他のトレンチでは、かなりの削平や攪乱によって基本層序の層と層は残存しておらず、基本層序の層除去後にすぐに層に到達するものがほとんどであった。層より下層では、層がいわゆるソフトローム層、層がホーキ火山砂層、層が始良丹沢火山灰(AT)層、層がいわゆるホワイトローム層、層がいわゆるハードローム層となる。遺物は、Tr.9の表土中から、弥生土器の小片3点と玉髄剥片1点が出土したのみであり、図化できなかった。

調査の結果、開発予定地内の各所にわたってトレンチを設定したにもかかわらず、遺構や遺物包含層を確認できないばかりか、遺物の出土も極めてわずかであったことから、対象範囲内に遺跡は存在しないと判断した。

以下、いくつかのトレンチについて報告をおこなう。なお、各トレンチの概要については表24を参照されたい。

表24 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模(m)	面積(m ²)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.2	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.3	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.4	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.5	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.6	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.7	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.8	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.9	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器・玉髄剥片	弥生時代他	-	-
Tr.10	2 × 7	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.11	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
面積合計		214											

第5章 確認調査の概要

Tr. 1(第91図、PL.32)

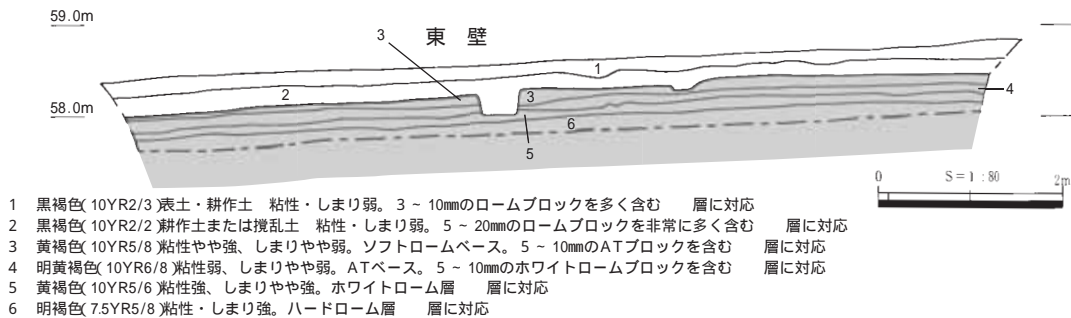
調査地内のやや西寄り、北側に緩やかに傾斜する斜面上に、南北方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約58.5mである。1・2層は基本層序の 層に相当し、1層は表土・耕作土、2層は耕作土または攪乱土となる。3層以下は基盤層である。3層は基本層序の 層に相当し、この上面において、ナシ園当時の暗渠や施肥溝が縦横に掘削されているのを確認できた。3層の下層は、4層が基本層序の 層、5層が 層、6層が 層であった。6層上面は、現地表面から約60～70cmの深さであった。遺物は出土しなかった。

Tr. 4(第92図、PL.32)

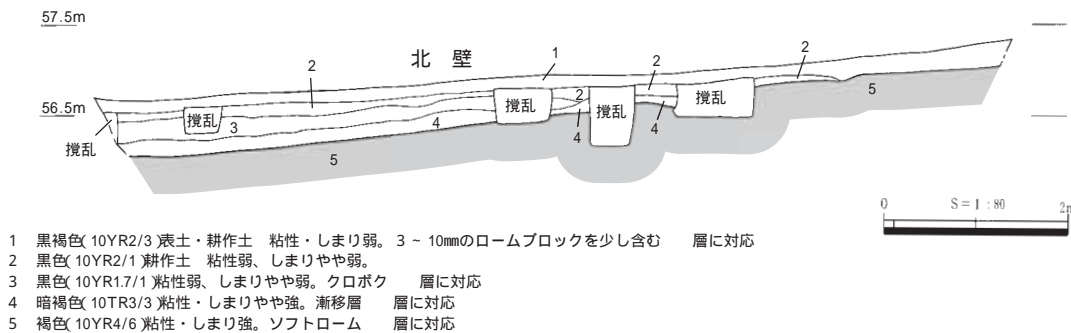
調査地の西端付近の傾斜変換線上に、東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約57mである。1層は基本層序の 層に相当する。1層下は、トレンチの東寄りでは、削平のためすぐに基盤層である5層(基本層序の 層)に至ったが、トレンチの大部分では、耕作土である2層があり、3層(基本層序の 層)、4層(基本層序の 層)の順で堆積がみられた。2層上面からは、最も深いところで、基盤層上面から約40～50cmの深さに達する暗渠や施肥溝が縦横に掘り込まれていた。堆積の良好なところでは、現地表面から50～60cmの深さで5層上面となる。この面は、トレンチ東端から約1.5mはほぼ平坦面をなし、そこからやや急に傾斜し、トレンチ西端では東端に比べて約50cm程度レベルが下がる。遺物は出土しなかった。

Tr. 5(第93図、PL.33)

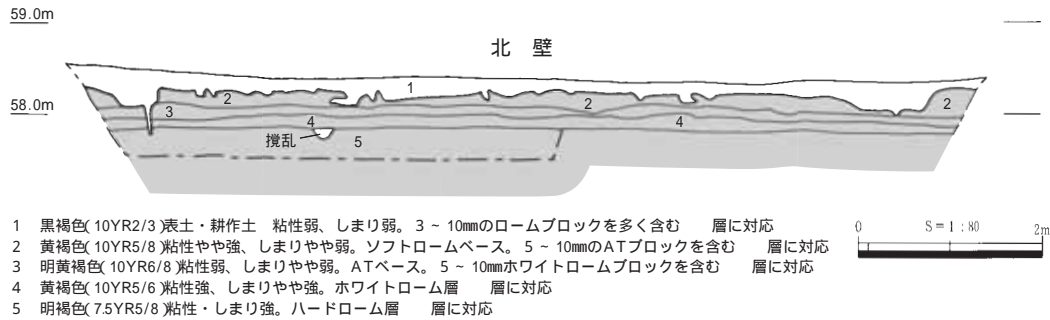
調査地の中央付近、丘陵頂部の平坦面に、東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約58.5mである。1層は基本層序の 層に相当し、1層下は大きく削平されており、すぐに基盤層である2層(基本層序の 層)となる。深掘りを行ったところ、2層下では、3層(基本層序の



第91図 Tr. 1



第92図 Tr. 4



第93図 Tr. 5

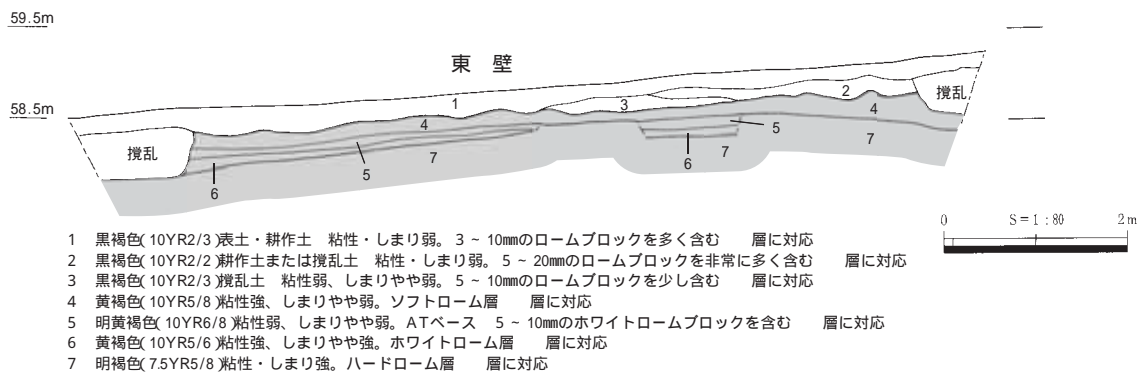
層)、4層(基本層序の 層)、5層(基本層序の 層)の順で堆積がみられた。5層上面は、現地表面から50～60cmの深さである。さらに、5層上面の北西部分において、1×5m程度のサブトレンチを設定して深掘りし、5層上面から約35cmの深さまで掘り下げた。遺物は出土しなかった。

Tr. 8(第94図、PL.33)

調査地のやや東寄り、尾根の最も高い位置から北側に傾斜する斜面上に、南北方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約59.0mである。1～3層は基本層序の 層に相当し、1層は表土・耕作土、2・3層は攪乱土である。3層下は、基盤層である4層(基本層序の 層)となるが、この面も暗渠や施肥溝によって、相当な削平を受けていた。暗渠や施肥溝による掘り込みによって、4層下の基本層序が部分的に確認でき、5層(基本層序の 層)、6層(基本層序の 層)、7層(基本層序の 層)の順で堆積がみられた。7層上面は、現地表面から約60cmの深さであった。遺物は出土しなかった。

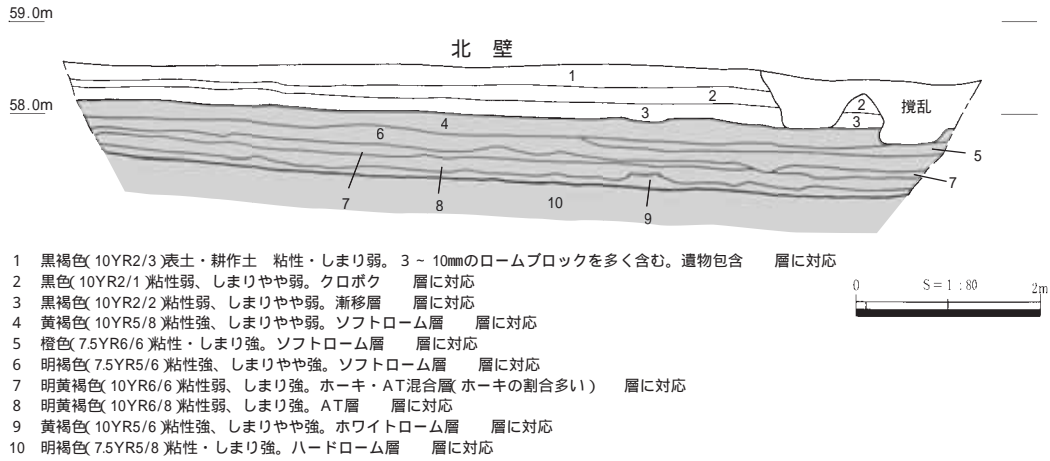
Tr. 9(第95図、PL.33)

県道のすぐ西側の平坦面に、東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約58.5mである。トレンチ東端から約2mの範囲は、攪乱によって、現地表面より約80cm下の4層上面まで掘り込まれていたが、その他は基本層序を保っていた。1層は基本層序の 層、2層は 層、3層は 層にそれぞれ相当し、基盤層である4層は基本層序の 層に相当する。さらに深掘りを行ったところ、5～10層がそれぞれ基本層序の ～ 層に相当する状況で、基本層序をよく残していた。10層上面は、現地表面から約120cmの深さである。本調査地内で、唯一遺物が出土したトレンチであり、耕作土中から弥生土器の小片3片と玉髓の剥片1点が出土したが、小片のため図化できなかった。



第94図 Tr. 8

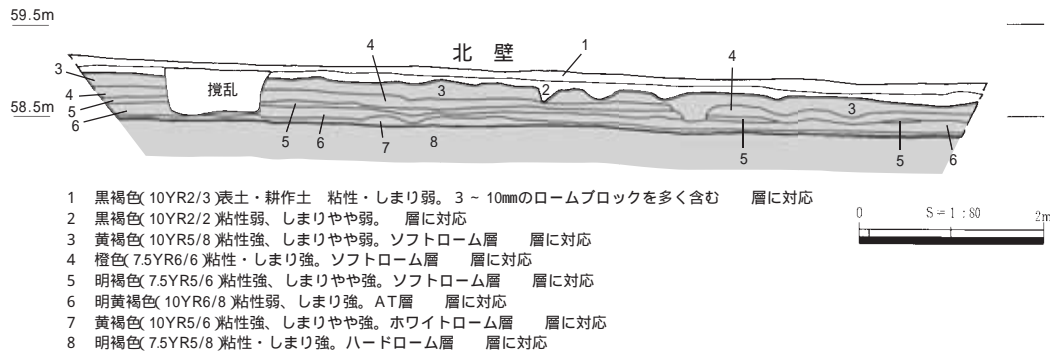
第5章 確認調査の概要



第95図 Tr. 9

Tr.11(第96図、PL.33)

Tr. 9より約15m南側の平坦面に、東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約59.0mである。1・2層は基本層序の 層に相当する耕作土である。基本層序 層は残存せず、現地表面より約20cmの深さで基盤層である3層(基本層序の 層)となる。さらに、トレンチの北半分を深掘りしたところ、4層(基本層序の 層)、5層(基本層序の 層)、6層(基本層序の 層)、7層(基本層序の 層)、8層(基本層序の 層)の順で堆積がみられた。8層上面は、現地表面から約60cmの深さであった。遺物は出土しなかった。



第96図 Tr.11

第9節 下甲退休原第1遺跡の調査

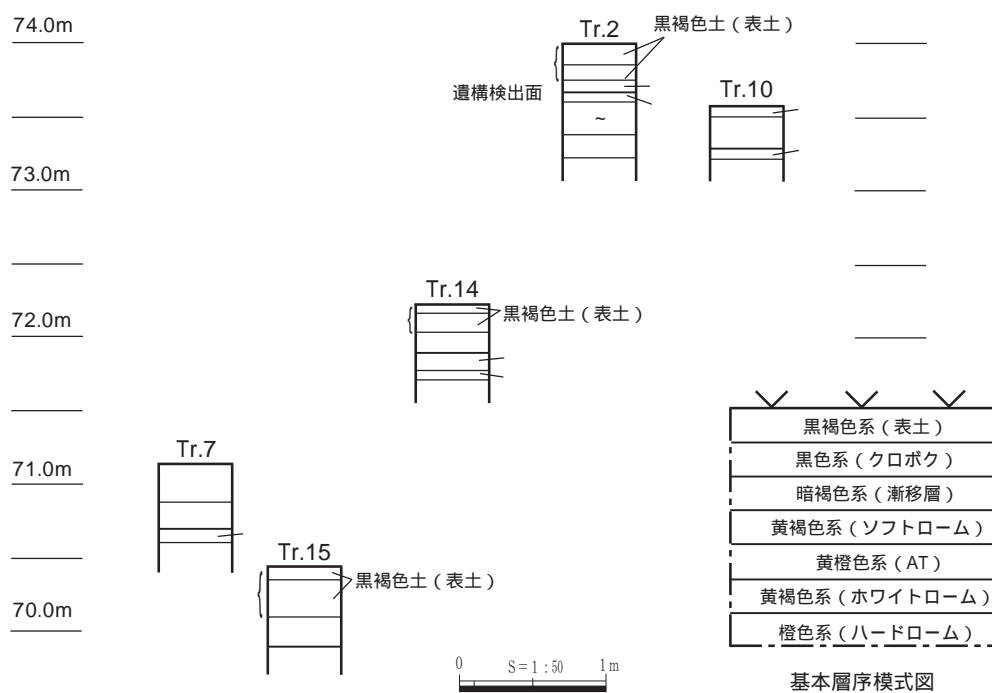
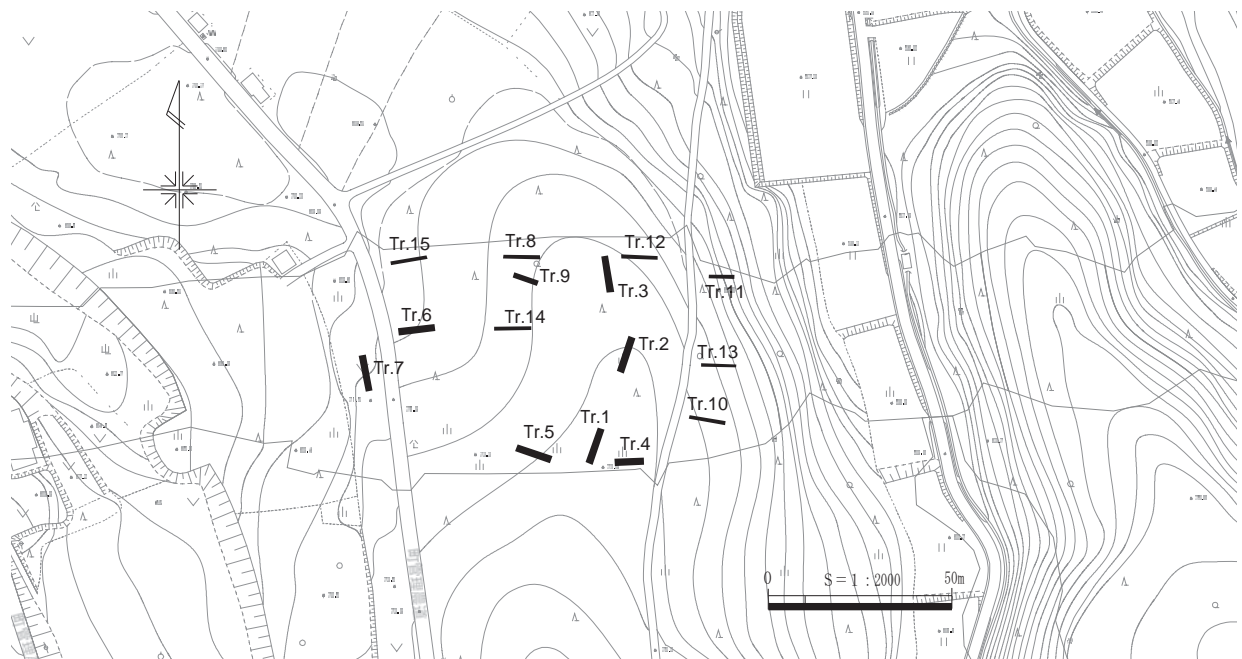
調査地点 大山町下甲1041 - 616外

調査期間 平成21年11月5日～平成21年11月27日

調査面積 213.5㎡

調査概要(第97図、表25、PL.34～36)

下甲退休原第1遺跡は、大山から日本海側に派生する丘陵上に位置する。現地表面での標高は約71



第97図 トレンチ位置図および基本層序模式図

第5章 確認調査の概要

表25 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模(m)	面積(m ²)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.2	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.3	2×10	20	-	-	-	2層(層)	弥生土器	弥生時代	-	-	-	1層1面	-
Tr.4	2×8	16	-	-	-	2層(層)	弥生土器?	弥生時代?	1層(層)	弥生土器?・陶器	弥生時代?・近世以降	1層1面	-
Tr.5	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.6	2×10	20	-	-	-	3層(層)	弥生土器	弥生時代後期	2層(層)	弥生土器?	弥生時代?	1層1面	-
Tr.7	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器?	弥生時代?	-	-
Tr.8	1×10	10	SK 1	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	4層上面
Tr.9	1.5×7	10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.10	1×10	10	-	-	-	-	-	-	1層(層)	縄文土器	縄文時代	-	-
Tr.11	1×7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.12	1×10	10	P 1	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	3層上面
Tr.13	1×10	10	SD 1	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	4層上面
Tr.14	1×10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.15	1×10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
面積合計		213.5											

～74mであり、地目は山林である。調査は、開発予定地内に15本のトレンチを設定して行った。その結果、遺物包含層を1層確認し、遺構は、落とし穴1基とピット1基、溝1条をそれぞれ確認した。

調査地の現地形は、調査地の最も西寄りのTr.7付近で標高が約71mとなり、そこから東側に向かって緩やかに高くなり、Tr.1・2・4の付近で標高が約74mと最も高くなる。その東側は斜面となり、調査地の東端での標高は約69.0～71.5mとなる。

基本層序は、上層から順に、層が黒褐色系の表土、層がクロボク、層以下が基盤層である火山碎屑物堆積層で、層が層と層との漸移層、層がいわゆるソフトローム層である。層より下層は、層が始良丹沢火山灰(AT)層、層がいわゆるホワイトローム層、層がいわゆるハードローム層となる。丘陵頂部付近の各トレンチにおける基本層序の層は表土で、2層に分けられる。また、Tr.2とTr.3では、基本層序の層に基本層序の層のブロックが混入しており、層と層が明瞭には分層できなかった。

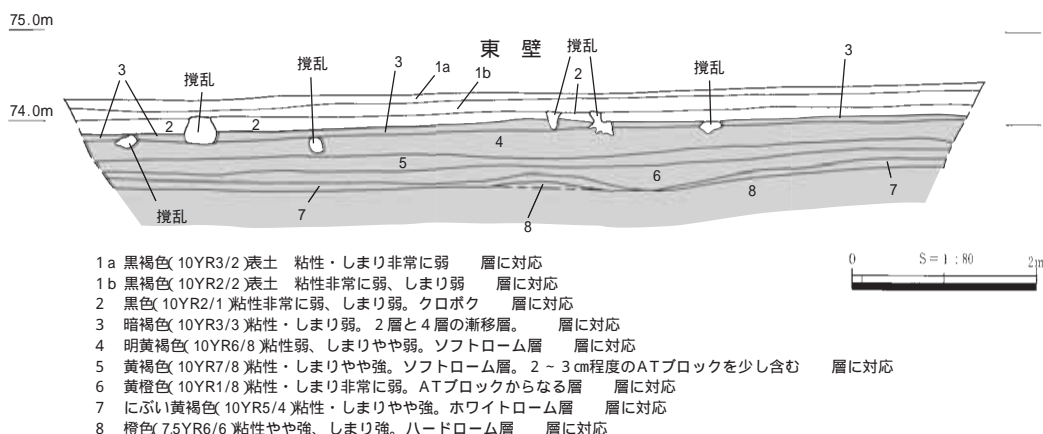
遺物は、Tr.4・6・7・10の基本層序の層中、およびTr.3・4・6の基本層序の層中から出土しているが、Tr.6から出土した弥生土器以外はいずれも小片のため図化できなかった。

調査の結果、Tr.3・4・6で遺物包含層を確認したほか、主に調査地の北側で遺構を確認したことから、当該調査地に遺跡が存在すると判断した。

以下、遺構を検出したトレンチを中心に報告をおこなう。なお、各トレンチの概要については表25を参照されたい。

Tr.1(第98図、PL.34)

調査地中央付近の南寄りの丘陵頂部に、南北方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約74.5mである。1a・1b層は基本層序層、2層は基本層序層にそれぞれ相当する。3層は基本層序層に相当し、それ以下は基盤層となる。3層上面での深さは約40cmである。4・5層は基本層序層に相当するいわゆるソフトローム層で、5層にはAT火山灰ブロックが少量含まれて



第98図 Tr. 1

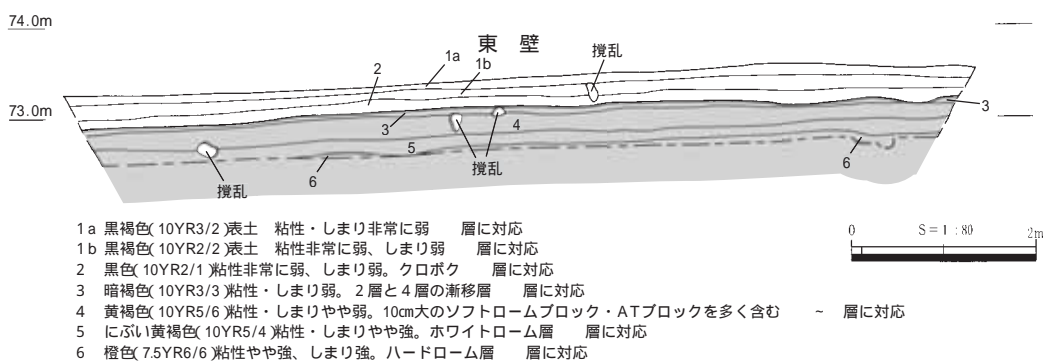
いた。6層は基本層序の 層、7層は 層、8層は 層にそれぞれ相当する。8層上面での深さは約1mである。遺物は確認できなかった。

Tr. 3(第99図、PL.34)

調査地中央付近の北寄り、丘陵頂部から南に向かって緩やかに傾斜する斜面上で、南北方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約73.5mである。1a・1b層は基本層序 層、2層は基本層序 層にそれぞれ相当する。3層は基本層序 層に相当し、それ以下は基盤層となる。3層上面での深さは約40cmである。4層は基本層序の ~ 層に相当するが、いわゆるソフトローム層に大きめのAT火山灰ブロックが混じってほぼ同化しており、明瞭に分層できなかった。その下層は、5層が基本層序 層、6層が基本層序 層にそれぞれ相当する。 層上面での深さは約90cmである。遺物は、2層から弥生土器の小片が出土したが、器種・時期等は不明である。

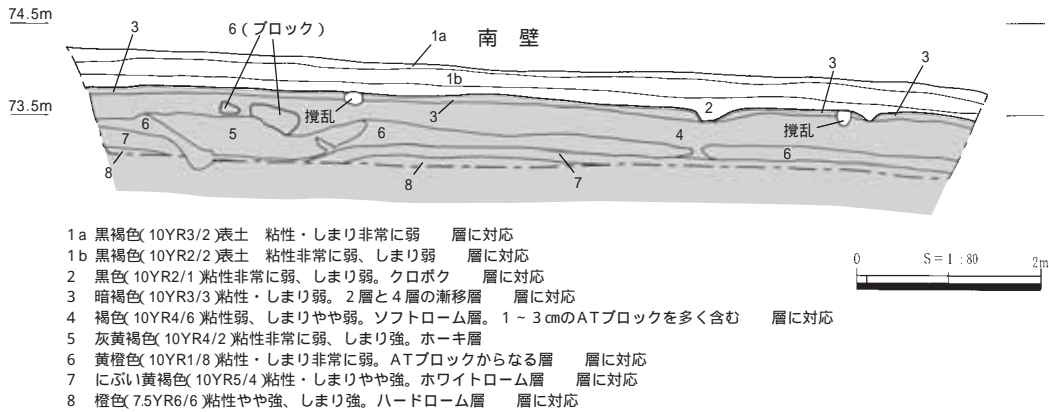
Tr. 5(第100図、PL.34)

調査地南寄りの丘陵頂部で、東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約74mである。1a・1b層は基本層序 層、2層は基本層序 層にそれぞれ相当する。3層は基本層序の 層に相当し、それ以下は基盤層となる。3層上面での深さは約40cmである。4層と6層～8層は、それぞれ基本層序の 層と ~ 層に相当する堆積であったが、トレンチの東寄りにおいて、6層(基本層序 層)を壊すように、ホーキ火山砂(5層)による攪乱があったため、4層にAT火山灰がブロック状に浮き上がる状況であった。遺物は確認できなかった。



第99図 Tr. 3

第5章 確認調査の概要



第100図 Tr. 5

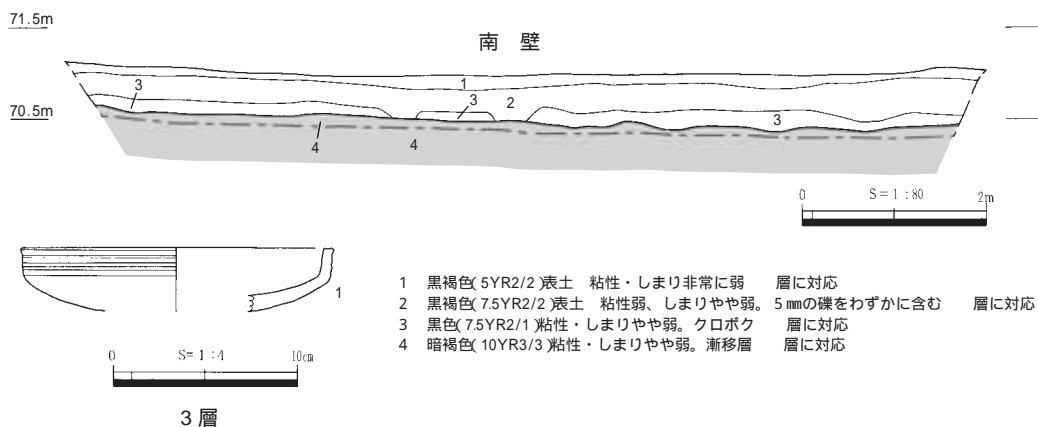
Tr. 6(第101図、表26、PL.34・36)

農道のすぐ東側の平坦面で、東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約71mである。1・2層は表土で、他のトレンチの1a・1b層とほぼ対応するが、2層は他のトレンチの1b層よりもわずかに粘性が強く、厚く堆積する。3層は基本層序層、4層は基本層序層にそれぞれ相当する堆積で、4層以下は基盤層となる。4層上面での深さは約60cmである。遺物包含層は3層で確認でき、弥生土器高坏(1)が出土した。

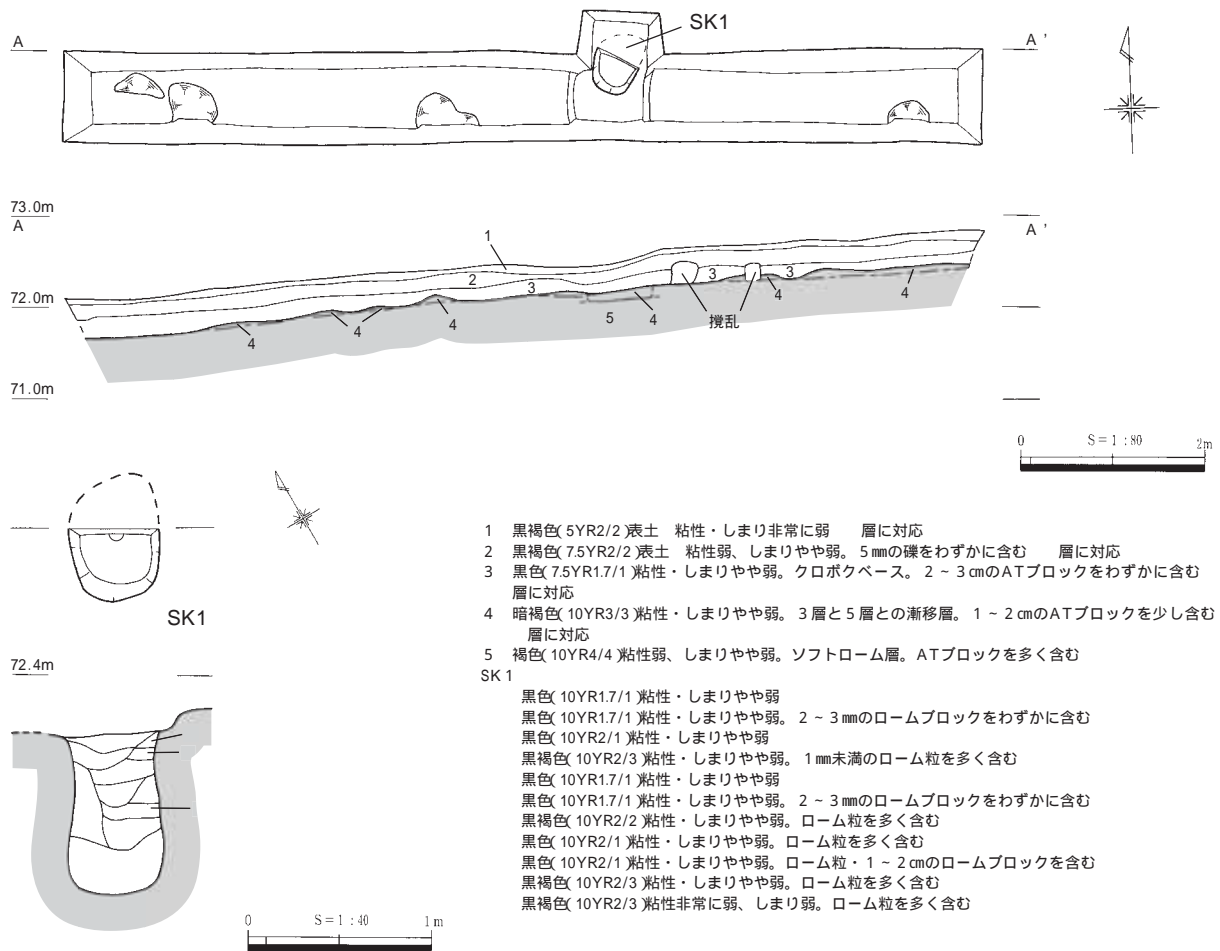
Tr. 8(第102図、PL.35)

調査地北寄りの中央付近、西に向かって傾斜する緩斜面上で、東西方向に1×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約72.0～72.5mである。1・2層は基本層序層、3層は基本層序層、4層は基本層序層にそれぞれ相当する。4層以下は基盤層で、一部で5層のいわゆるソフトローム層を確認した。4層上面での深さは約40cmである。トレンチ中央付近の4層上面において土坑(SK1)を検出したため、トレンチを一部北側に拡張した。

SK1は、主軸を北東-南西方向にとり、平面形態が長軸70cm×短軸50cmの楕円形を呈する。検出面から底面までの深さは約90cmを測る。SK1の埋土は、クロボク起源の黒色土で、ほとんどの層でロームブロックを含んでいた。底面ピットを確認したことから、未掘ではあるが、落とし穴と考えた。埋土中から遺物は出土しなかった。



第101図 Tr. 6



第102図 Tr. 8

Tr.12(第103図、PL.35)

調査地北寄りの丘陵頂部付近で、東西方向に1×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約72.5～73.0mである。1a・1b層は基本層序 層、2層は基本層序 層、3層は基本層序 層に相当し、3層以下は基盤層となる。3層上面での深さは約40cmである。3層上面のトレンチ中央付近において、ピットP1を検出した。遺物は確認できなかった。

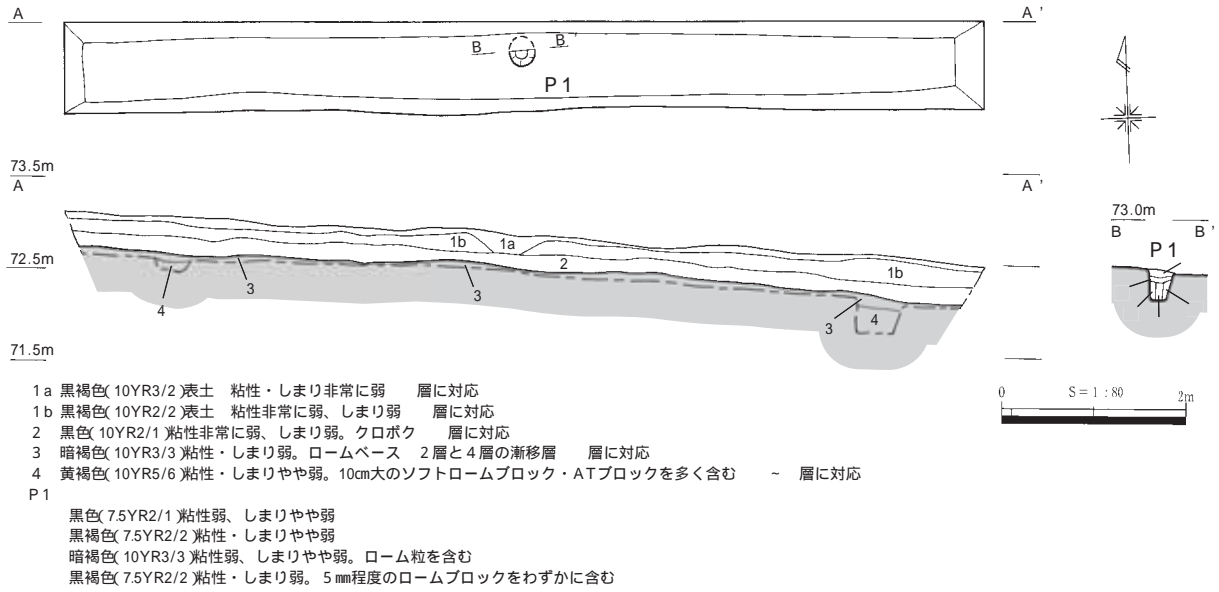
P1は、検出面での直径が約30cmで、深さは約30cmを測る。埋土の土層観察の結果、 層の中央に 層が断面長方形に幅10cm弱、深さが20cmの範囲で入っていたことから、この層が柱痕と考えられる。遺物は出土しておらず、時期等は不明である。

Tr.13(第104図、PL.36)

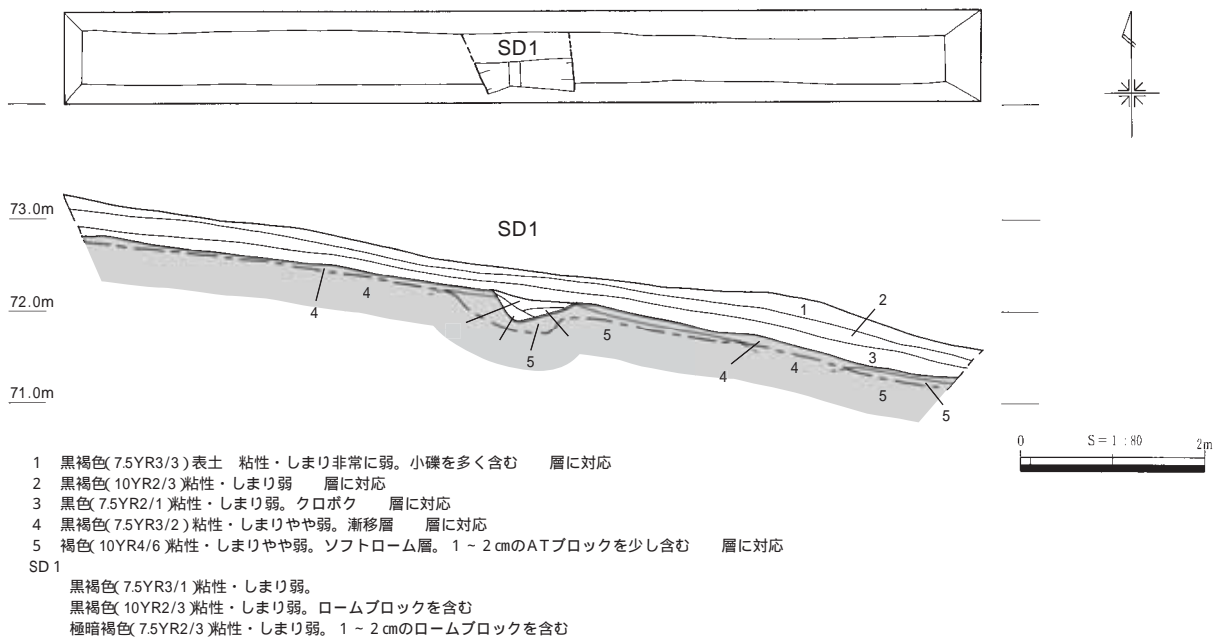
調査地の東側斜面に、東西方向に1×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約71.5～73.0mである。1・2層は基本層序 層、3層は基本層序 層、4層は基本層序 層にそれぞれ相当し、4層以下は基盤層となる。4層上面での深さは30～50cmである。一部で5層(基本層序 層)を確認した。4層上面のトレンチ中央付近では、溝(SD1)を検出した。遺物は確認できなかった。

SD1は、検出面での幅が約1m、深さが約30cmの断面V字状の溝である。埋土は、クロボクをベースとし、 層にはロームブロックを含んでいた。遺物は出土しておらず、時期等は不明である。

第5章 確認調査の概要



第103図 Tr.12



第104図 Tr.13

表26 出土土器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量(cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第101図	No.5	Tr. 6 3層	弥生土器 高坏	口縁部 1/8	口径: 17.2 器高: 3.5	外面: ナデ。口縁部に3条の凹線 内面: ハケメ後ナデ	密	良好	内外面: 淡黄褐色	外面一部にスス附着

第10節 樋口長田遺跡の調査

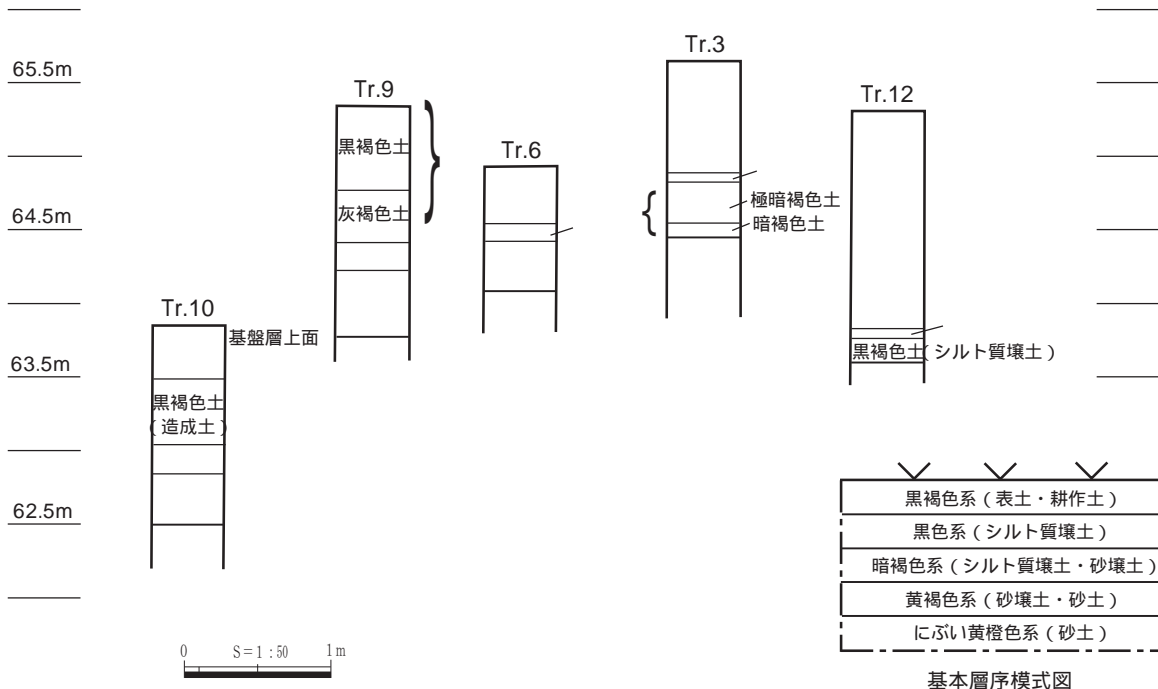
調査地点 大山町樋口541外

調査期間 平成21年4月16日～平成21年5月21日

調査面積 240m²

調査概要(第105図、表27、PL.37～39)

樋口長田遺跡は、大山東部の野田ヶ山・矢筈ヶ山に発し日本海へ向かって北流する甲川の東岸に位



第105図 トレンチ位置図および基本層序模式図

第5章 確認調査の概要

置する。遺跡周辺は甲川によって形成された火山麓扇状地で、現地表面での標高は約63～65mである。調査地の地目は畑地で、1970年代に大規模な削平を伴う圃場整備が行われている。

開発予定地内に12本のトレンチを設定し、調査を行ったものの、遺構は確認していない。

調査地内の堆積は、いずれのトレンチでも耕作土の直下に河川性堆積物層(扇状地堆積物層)が見られた。河川性堆積物層は大きく見て4層(基本層序～層)確認しており、いずれの層も礫を含んだシルト質または砂質の堆積物である。Tr.8・9・11・12では、1層に摩滅した弥生土器の小片・細片が含まれていることを確認した。ただし、1層が確認されたトレンチでも遺物を含まない場合もあり、同一層内でも遺物が出土する範囲が限られている。これらの層は甲川の氾濫や土石流などを原因として形成されたものと思われるため、出土した土器は本来の位置から大きく離れており、調査地の南方から流下してきたものと思われる。したがって、調査地内に遺構が存在する可能性は低く、仮にかつて調査地内に弥生時代の遺構が存在していたとしても、河川性堆積物層形成時に消滅してしまった可能性が高い。

表土および耕作土中からは、すべてのトレンチで比較的多数の遺物が出土しているほか、調査地内の地表面にも遺物の散布が認められた。遺物の帰属時期は広範にわたるものの、中世の遺物が主体となっている。したがって、中世を中心とした遺跡が存在していた可能性が高いが、圃場整備によって消滅してしまったものと思われる。

以上のことから、開発予定地内には遺跡は現存しないものと思われる。

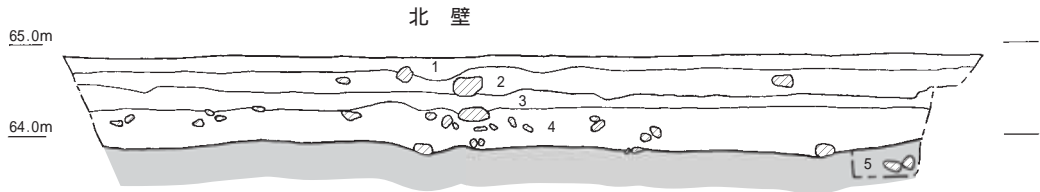
以下、河川性堆積物層から遺物が出土したトレンチや、代表的な堆積を見せるトレンチについて報告を行う。なお、その他のトレンチの調査結果については表27を参照されたい。

表27 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模(m)	面積(m ²)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した包含層数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1～3層(層)	陶器・土師器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.2	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	土師器	中世	-	-
Tr.3	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	鉄滓・瓦・土師器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.4	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1・2層(層)	鉄滓・染付・青磁・土師器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.5	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1・2層(層)	鉄滓・近世陶磁・青磁・土師器	古代?～近世	-	-
Tr.6	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	鉄滓・青磁・陶器・土師器・弥生土器・石鏝	弥生時代～近世	-	-
Tr.7	2×10	20	-	-	-	2層(層)	弥生土器	弥生時代	1層(層)	近世陶磁・青磁・中世陶器・勝間田焼・土師器・鉄器・石鏝	古代?～近世	1層	-
Tr.8	2×10	20	-	-	-	2層(層)	弥生土器	弥生時代	1層(層)	近世陶磁・土師器・土鏝	古代?～近世	1層	-
Tr.9	2×10	20	-	-	-	3層(層) 4層(層)	弥生土器	弥生時代	1・2層(層)	鉄滓・土師器・須恵器・弥生土器	弥生時代～近世	2層	-
Tr.10	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1・2層(層)	染付・瓦質土器・土師器	古代?～近世	-	-
Tr.11	2×10	20	-	-	-	4層(層) 6層(層)	弥生土器	弥生時代	1～3層(層)	青磁・羽釜・土師器・弥生土器・土鏝	弥生時代～近世	2層	-
Tr.12	2×10	20	-	-	-	4層(層)	弥生土器	弥生時代	1層(層)	染付・土師器・弥生土器・石器	弥生時代～近世	1層	-
面積合計		240											

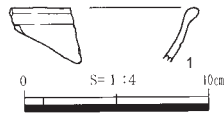
Tr. 1 (第106・107図、表30、PL.37・39)

調査地北東部に設定した。1～3層が表土・耕作土で約60cmの厚さがあり、2・3層は下底に鉄分沈着層が見られることから、畑に転換される以前の水田耕作土と思われる。なお、他のトレンチの耕作土も同様のあり方を示している。4・5層が河川性堆積物層である。4層は基本層序 層に対応する黒色シルト質壤土で、黒色で火山ガラスが含まれていることからクロボクが母材の主体となっているものと思われる。5層は基本層序 層に対応する礫を非常に多く含む粗砂層である。礫を密に含むため掘削が極めて困難で、河床礫層あるいはそれに準じる層と見て、いずれのトレンチともこの層の検出をもって掘り下げを停止した。

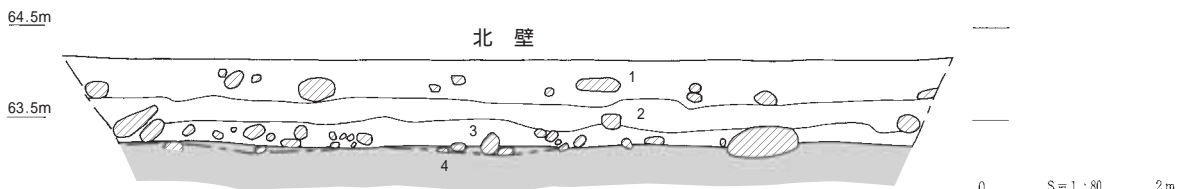


- 1 黒褐色(10YR3/2)表土 粘性やや弱、しまり弱。2～3mmの礫、2mm以下の粗砂を多く含む 層に対応
- 2 黒色(10YR2/1)耕作土 粘性・しまりやや弱。2～5mmの礫、2mm以下の粗砂を多く含む。5～35cmの礫を少し含む。遺物包含 層に対応
- 3 黒褐色(10YR3/2)耕作土 粘性やや弱、しまり弱。2～3mmの礫、2mm以下の粗砂を多く含む。5～10mmの礫をやや多く含む。遺物包含 層に対応
- 4 黒色(10YR2/1)シルト質壤土 粘性・しまりやや弱。2～5mmの礫、2mm以下の粗砂を多く含む。5～30cmの礫をやや多く含む 層に対応
- 5 黄褐色(10YR6/6)砂土(細砂～粗砂) 粘性非常に弱、しまり弱。1～5cmの礫を多く、5～15cmの礫を少し含む 層に対応

第106図 Tr. 1

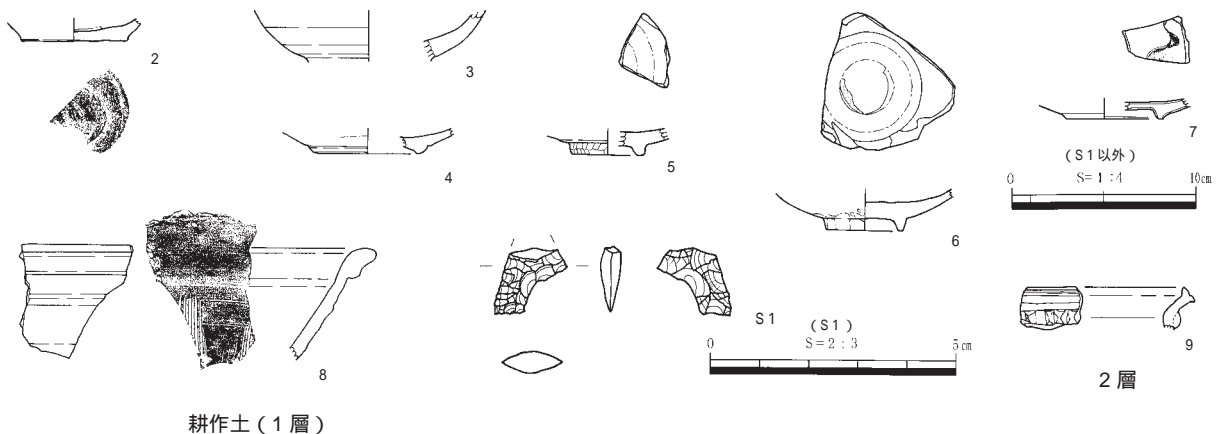


第107図 Tr. 1 出土遺物



- 1 黒褐色(10YR3/2)耕作土 粘性・しまり弱。細砂・1cm以下の小礫含む。遺物包含 層に対応
- 2 黒色(10YR2/1)シルト質壤土 粘性やや弱、しまり弱。細砂含む。3～30cmの礫を少し含む。遺物包含 層に対応
- 3 暗褐色(10YR3/3)シルト質壤土 粘性・しまり弱。細砂含む。3～30cmの礫を多く含む 層に対応
- 4 にぶい黄褐色(10YR6/4)砂土(細砂～粗砂) 粘性非常に弱、しまりやや強。1～60cmの礫非常に多く含む 層に対応

第108図 Tr. 7



第109図 Tr. 7 出土遺物

第5章 確認調査の概要

本トレンチでは河川性堆積物層からは遺物は出土していない。耕作土からは陶器、土師器、須恵器が出土した。そのうち、中世のものと思われる陶器を1点図示した(1)。

Tr.7(第108・109図、表28・30、PL.38・39)

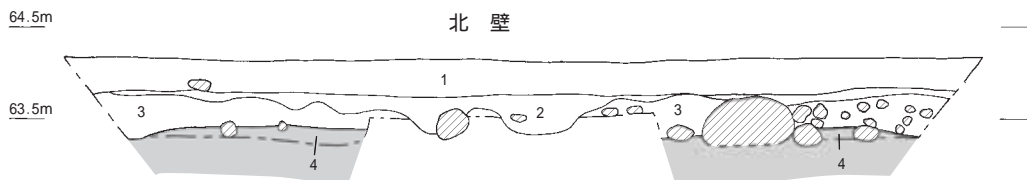
調査地の中央やや西寄りに設定した。1層が耕作土で、2層以下が河川性堆積物である。基本層序層に対応する2層からは弥生土器小片・細片が約20点出土した。このうち図化に耐えるものを1点掲載した。9は弥生時代中期後葉の甕の口縁部片である。また、耕作土からは中世～近世遺物が多数出土しており、そのうちのいくつかを図示した。2は土師器坏、3は青磁碗、4～6は陶器皿、7は染付、8は備前焼の挿鉢である。2・3が中世のもの、4～8が近世のものと考えられる。そのほか、黒曜石製石鏃が1点出土している(S1)。

Tr.8(第110・111図、表30、PL.38・39)

Tr.7の11m南に設定した。Tr.7と同じ堆積を確認している。また、Tr.7同様、基本層序層に対応する2層から弥生土器小片・細片が約50点出土した。そのうち2点を掲載した。13は弥生時代中期後葉の甕の口縁部片、14は弥生時代中期の甕の底部片である。耕作土からは中世～近世を中心とする遺物が出土しており、そのうちの3点を図示した。10・12は陶器皿、11は土玉で、10・12は近世のものと考えられる。

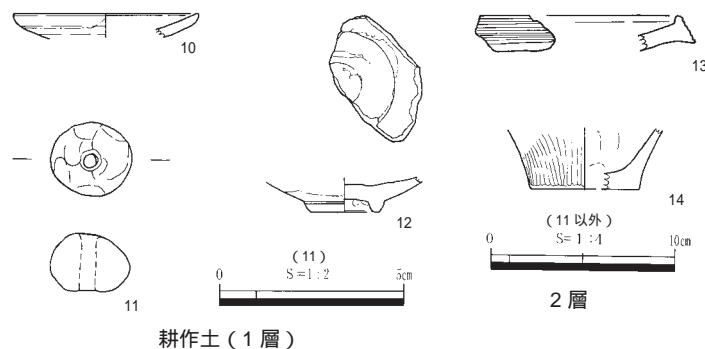
Tr.9(第112・113図、表29・30、PL.38・39)

Tr.8の18m南に設定した。1・2層が耕作土、3層以下が河川性堆積物である。3層が基本層序層に、4層が基本層序層に対応し、このトレンチでは4層から弥生土器小片・細片が約10点出土した。そのうち1点を図示した。20は弥生時代中期後葉の壺口縁部片である。耕作土からは弥生土器、



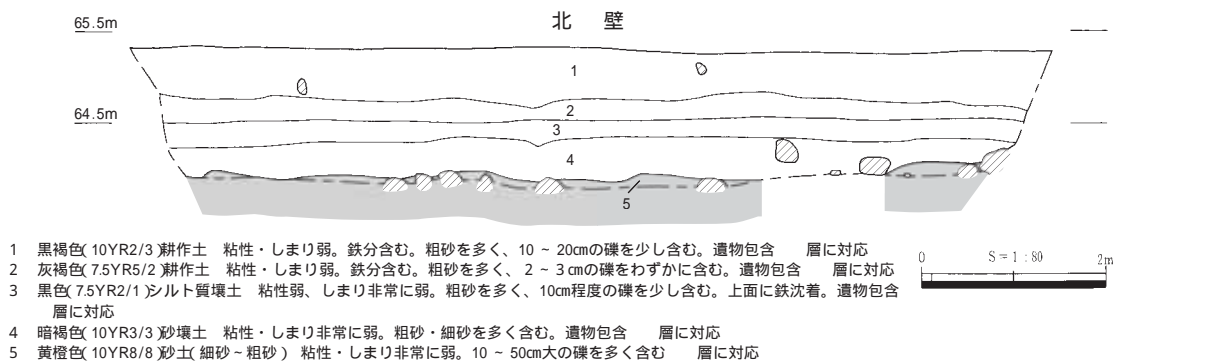
- 1 黒褐色(10YR3/2)耕作土 粘性・しまり弱。細砂・1cm以下の小礫含む。遺物包含 層に対応
- 2 黒色(10YR2/1)シルト質壤土 粘性やや弱、しまり弱。細砂含む。1cm以下の礫を少し含む。遺物包含 層に対応
- 3 暗褐色(10YR3/3)シルト質壤土 粘性やや弱、しまり弱。細砂含む。3～60cmの礫を非常に多く含む 層に対応
- 4 にぶい黄褐色(10YR6/4)砂土(細砂～粗砂) 粘性非常に弱、しまりやや強。1～60cmの礫非常に多く含む 層に対応

第110図 Tr. 8

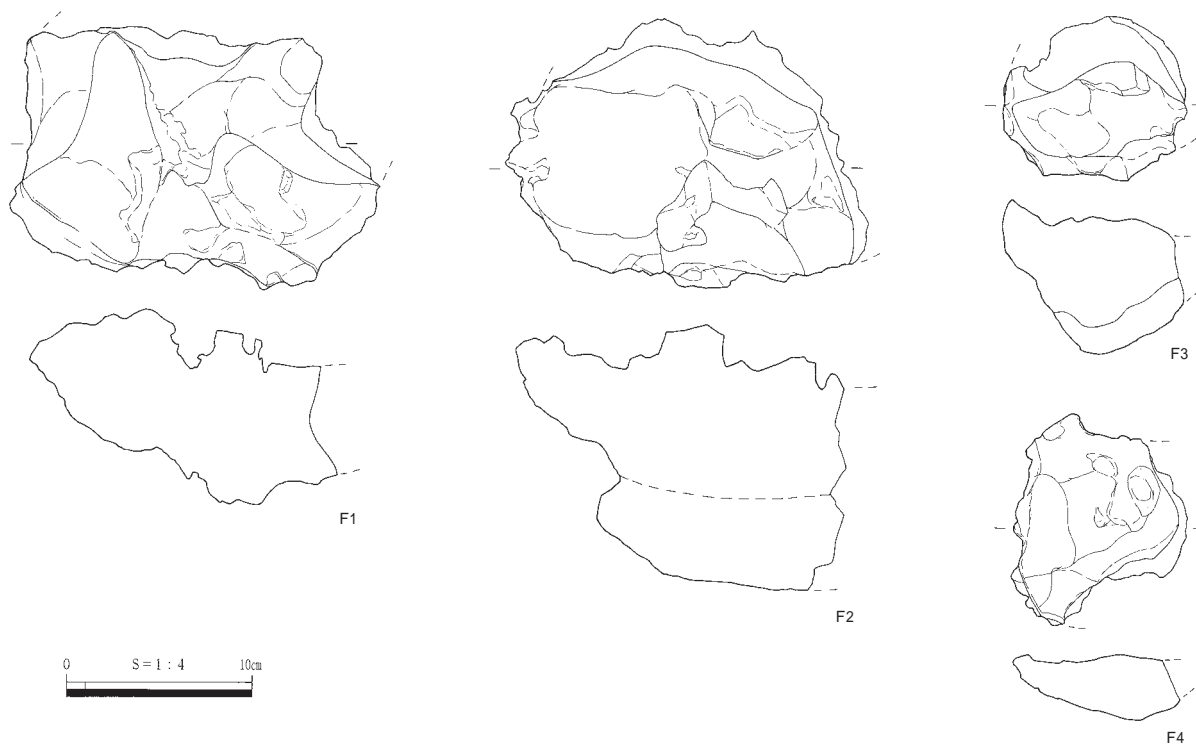
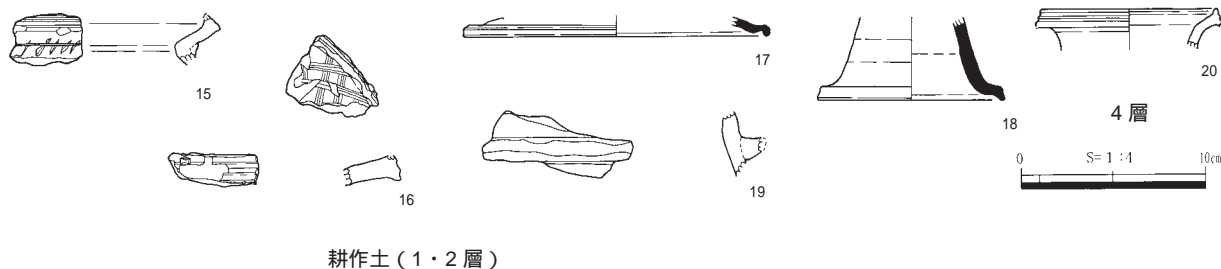


第111図 Tr. 8 出土遺物

須恵器、土師器、鉄滓などが出土している。そのうちいくつかを図示した。15・16は弥生時代中期後葉の土器片、17は古代の須恵器、18は古墳時代または古代の須恵器、19は土師器羽釜片で中世のものである。図示した鉄滓F1～F4はいずれも椀形鍛冶滓である。鉄滓の出土量が非常に多く、本トレンチだけでコンテナ1箱分にのぼる。図示したような椀形鍛冶滓を中心に、鍛冶滓も少数含まれる。F1・F2のような大形の個体が見られるので、中世または近世の所産である可能性が高い。なお、Tr.9を設定した筆(芝畑として耕作が行われていた)の地表面には、相当量の鉄滓が散布していた。



第112図 Tr. 9



第113図 Tr. 9 出土遺物

第5章 確認調査の概要

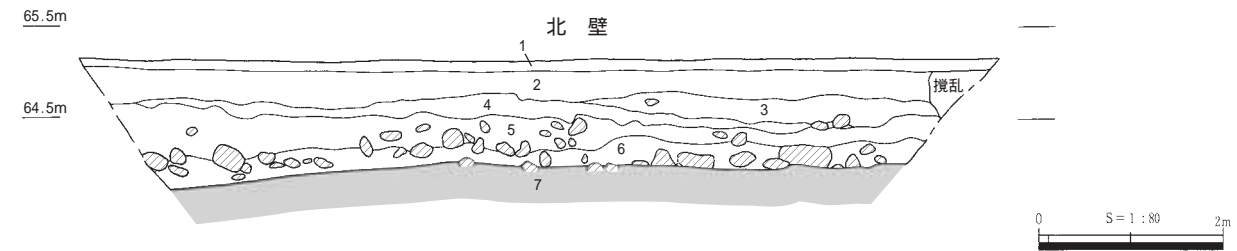
Tr.11(第114・115図、表30・31、PL.38・39)

調査地東端部付近に設定した。1～3層が耕作土、4層以下が河川性堆積物である。4層は他のトレンチでは確認していない砂層である。トレンチ内でも全面に堆積しておらず、その平面的な広がりから見て、南西側から北東方向に向かう局所的な水流によって形成されたものと考えられる。この層から弥生土器の小片・細片が約150点出土した。そのうち6点を図示した(27～32)。弥生時代中期～後期のものである。いずれも摩滅が著しい。5層が基本層序 層に対応し、6層が基本層序 層に対応する。6層からも弥生土器小片・細片が約60点出土している。そのうち1点を図示した(33)。

耕作土からは弥生土器、土師器、青磁、近世陶磁器などが出土している。21・26は弥生土器、22は土師器羽釜片、23は陶器皿、24は青磁碗、25は磁器皿である。22～24は中世のもの、25は近世のものと考えられる。

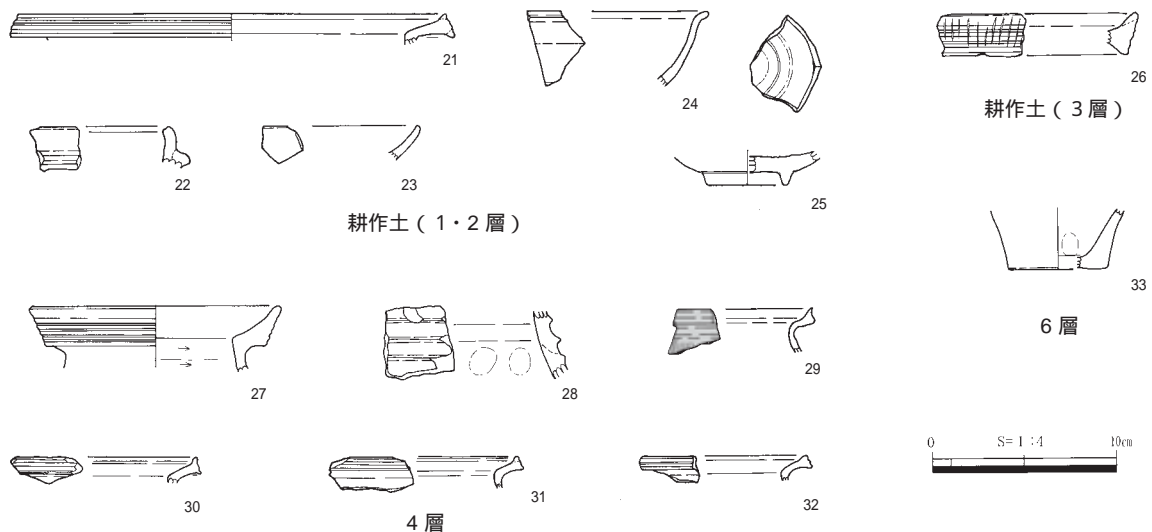
その他のトレンチ出土遺物(第116・117図、表28・29・31、PL.38・39)

その他のトレンチからも主に耕作土から遺物が出土している。そのいくつかを図示した。Tr.12は基本層序 層から弥生土器小片・細片が約50点出土しており、48・49を図示している。他はすべて耕作土からの出土で、中世の遺物が主体となる。

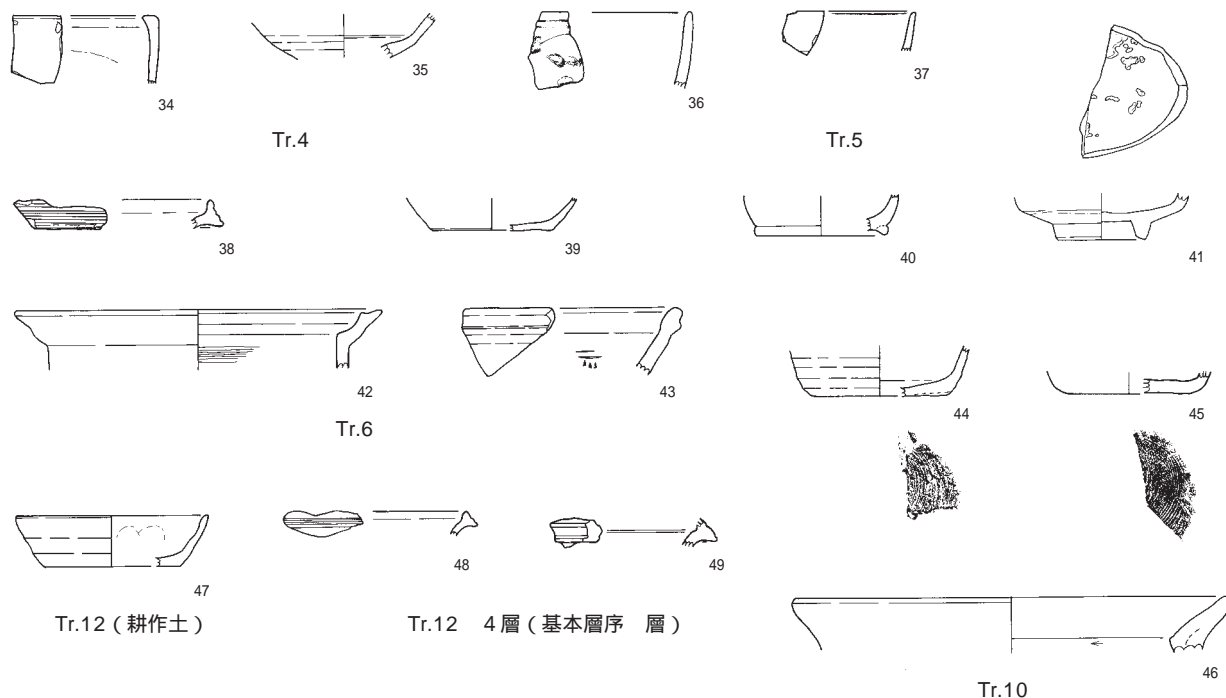


- 1 黒褐色(10YR3/2)耕作土 粘性やや弱、しまり弱。粗砂・2cm以下の礫を少し、2cm以下の黄褐色土ブロックをわずかに含む。遺物包含 層に対応
- 2 黒褐色(10YR2/3)耕作土 粘性・しまりやや弱。粗砂・2～30mmの礫を含む。2～5mmの黄褐色土ブロックをわずかに含む。鉄分沈着あり 層に対応
- 3 黒褐色(10YR2/2)耕作土 粘性・しまりやや弱。粗砂・2～10mmの礫を含む。5～20mmの黄褐色土ブロックをわずかに含む 層に対応
- 4 灰黄褐色(10YR4/2)砂壤土 粘性・しまり非常に弱。細砂・粗砂・2～20mmの礫を非常に多く含む。鉄分沈着あり。遺物包含
- 5 黒色(10YR2/1)シルト質壤土 粘性・しまり弱。細砂・粗砂・20cm以下の礫を多く含む。遺物包含 層に対応
- 6 暗褐色(10YR3/3)砂壤土 粘性非常に弱、しまり弱。細砂を非常に多く、粗砂を多く含む。20cm以上の礫を少し、20cm以下の礫を非常に多く含む。鉄分沈着あり。遺物包含 層に対応
- 7 褐色(10YR4/4)砂壤土 粘性非常に弱、しまりやや弱。20cm以上の礫を少し、20cm以下の礫を非常に多く含む。鉄分沈着あり

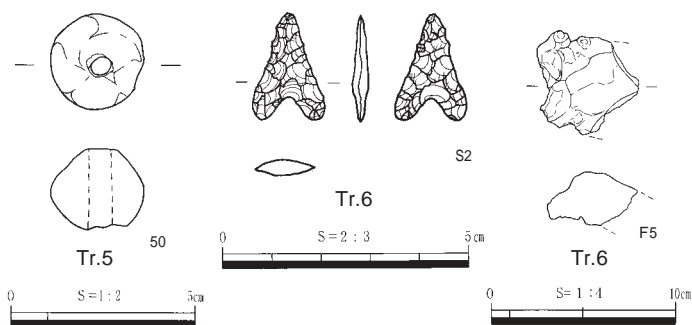
第114図 Tr.11



第115図 Tr.11出土遺物



第116図 その他のトレンチ出土遺物(1)



第117図 その他のトレンチ出土遺物(2)

表28 出土石器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	石材	法量				備考
						最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
S 1	第 109 図	No.45	Tr.7 耕作土	石鏃	黒曜石	1.3	1.3	0.4	0.5	欠損
S 2	第 117 図	No.14	Tr.6 耕作土	石鏃	黒曜石	2.2	1.5	0.4	0.5	

表29 出土鉄滓観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	法量			備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	
F1	第 113 図	No.17	Tr.9 耕作土	椀形鉄冶滓	20.0	14.3	9.4	
F2	第 113 図	No.21	Tr.9 耕作土	椀形鉄冶滓	19.7	14.8	14.5	重層する。
F3	第 113 図	No.21	Tr.9 耕作土	椀形鉄冶滓	10.0	8.9	7.5	
F4	第 113 図	No.21	Tr.9 耕作土	椀形鉄冶滓	9.8	11.4	3.6	
F5	第 117 図	No.18	Tr.6 耕作土	椀形鉄冶滓	5.6	5.7	2.9	

第5章 確認調査の概要

表30 出土土器観察表(1)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	量(cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第107図	No.4	Tr.1 耕作土	陶器 碗	口縁部 1/8以下	器高： 3.0	内外面：灰白釉の施釉、貫入あり	密	良好	内外面：灰白色	
2	第109図	No.45	Tr.7 耕作土	土師器 坏	底部 1/2 ~ 3/4	底径： 5.8 器高： 1.2	外面：体部回転ナデ。底部回転系切り後ナデ 内面：回転ナデ。底部中央ナデ、オサエ	密(長石・砂粒を含む)	良好	内外面：橙色	
3	第109図	No.51	Tr.7 耕作土	青磁 碗	体部 1/4以下	器高： 2.8	内外面：施釉(貫入あり)	密	良好	釉：オリーブ灰色 胎土：灰色	
4	第109図	No.39	Tr.7 耕作土	陶器 皿	底部 1/4以下	高台径： 6.0 器高： 1.4	外面：灰釉施釉。露胎部分は回転ヘラケズリ 内面：灰釉施釉	密(径1mm大の砂粒を少量含む)	良好	釉：灰白色 胎土：淡灰褐色	
5	第109図	No.39	Tr.7 耕作土	陶器 皿	底部 1/4以下	高台径： 3.8 器高： 1.5	外面：体部回転ナデ。高台部ケズリ 内面：銅緑釉施釉。露胎部分は回転ナデ、蛇ノ目状に釉かきとり	密	良好	釉：オリーブ灰色 胎土：黄灰色	
6	第109図	No.39	Tr.7 耕作土	陶器 皿	体～底部 3/4	高台径：3.6 器高： 2.2	外面：灰白釉施釉。露胎部分は回転ナデ 内面：灰白釉施釉。蛇ノ目状に釉かきとり。目跡あり	密	良好	釉：灰白色 胎土：淡明褐色	
7	第109図	No.40	Tr.7 耕作土	染付 皿	底部 1/8	底径： 5.3 器高： 1.1	外面：施釉。量付は露胎 内面：施釉。染付	密(径1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	釉：灰白色 胎土：白色	量付に砂が付着
8	第109図	No.45	Tr.7 耕作土	陶器 擂鉢	口縁～体部 1/8以下	器高： 6.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ。体部に擂り目	密	良好	外面：明赤褐～赤灰色 内面：赤灰色	
9	第109図	No.49	Tr.7 2層	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高： 2.3	外面：口縁部ナデ、2条の凹線。頸部に指頭圧痕貼付突帯 内面：ナデ	密	良好	内外面：明褐色	
10	第111図	No.50	Tr.8 耕作土	陶器 皿	口縁～体部 1/4以下	口径： 10.0 器高： 1.4	外面：黄灰釉施釉。露胎ナデ、回転ヘラケズリ 内面：黄灰釉施釉	密	良好	釉：にぶい黄褐色 胎土：にぶい黄褐色	
11	第111図	No.50	Tr.8 耕作土	土玉	完形	最大径：2.2 最大厚：1.6 穿孔径：0.4	内外面：指押さえによる成形	密	良好	橙～にぶい橙色	
12	第111図	No.50	Tr.8 耕作土	陶器 皿	体～底部 1/4 ~ 1/2	底径： 5.8 器高： 1.9	外面：灰施釉 内面：灰施釉。蛇ノ目状に釉かきとり	密	良好	釉：灰白色 胎土：灰色	
13	第111図	No.54	Tr.8 2層	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	口径： 15.6 器高： 2.0	外面：口縁部ナデ、5条の凹線。 内面：ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
14	第111図	No.54	Tr.8 2層	弥生土器 壺または甕	底部 約1/4	底径： 6.0 器高： 3.3	外面：ミガキ 内面：ヘラケズリ(下上)後ナデ、指頭圧痕	密(径1mm以下の砂粒を含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	外面にススが付着する
15	第113図	No.25	Tr.9 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高： 2.7	外面：ナデ。口縁部3条以上の凹線。頸部に指頭圧痕貼付突帯 内面：ナデ	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	
16	第113図	No.31	Tr.9 耕作土	弥生土器 壺	口縁部 1/8以下	器高： 1.7	外面：ナデ。口縁部2条の凹線 内面：口縁部上面ナデ、櫛描斜格子文	密	良好	外面：浅黄～暗灰黄色 内面：灰黄～暗灰黄色	
17	第113図	No.25	Tr.9 耕作土	須恵器 蓋	口縁部 1/8以下	口径： 16.2 器高： 0.9	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	
18	第113図	No.25	Tr.9 耕作土	須恵器 高坏	脚部 1/8以下	脚径： 10.2 器高： 4.5	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	
19	第113図	No.22	Tr.9 耕作土	土師器 羽釜	体部 1/4以下	器高： 2.5	外面：回転ナデ 内面：ナデ	やや粗(長石・石英を含む)	良好	内外面：黄褐色	
20	第113図	No.26	Tr.9 4層	弥生土器 壺	口縁部 1/8以下	口径： 9.6 器高： 2.2	外面：ナデ。口縁部2条の凹線 内面：ナデ	密(微砂粒を含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
21	第115図	No.27	Tr.11 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/4以下	口径： 23.0 器高： 1.4	外面：ナデ。口縁部3条の凹線 内面：ナデ	密(0.5～1mm程度の長石を含む)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
22	第115図	No.27	Tr.11 耕作土	土師器 羽釜	口縁部 1/8以下	器高： 2.3	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：暗灰色	ススが付着する
23	第115図	No.27	Tr.11 耕作土	陶器 皿	口縁部 1/8以下	器高： 1.9	内外面：灰釉施釉(貫入あり)	密	良好	釉：灰オリーブ色 胎土：灰色	
24	第115図	No.27	Tr.11 耕作土	青磁 碗	口縁部 1/4以下	器高： 4.2	内外面：施釉	密	良好	釉：明オリーブ灰色 胎土：灰色	
25	第115図	No.27	Tr.11 耕作土	磁器 皿	底部 1/4	高台径： 4.6 器高： 1.9	外面：施釉 内面：施釉。蛇ノ目状に釉かきとり	密	良好	釉：灰白色 胎土：灰白色	

表31 出土土器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
26	第115図	No.28	Tr.11 耕作土	弥生土器 壺	口縁部 1/8以下	器高: 2.3	外面: ナデ。口縁部4条の凹線後、キザミ 内面: ナデ	密	良好	外面: 浅黄橙~黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
27	第115図	No.42	Tr.11 4層	弥生土器 甕	口縁部 1/4以下	口径: 13.7 器高: 3.4	外面: ナデ、口縁部4条の平行沈線 内面: 口縁部ナデ。体部ヘラケズリ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
28	第115図	No.37	Tr.11 4層	弥生土器 壺	頸部(突帯) 1/8以下	器高: 3.7	外面: ナデ 内面: 上位ヘラケズリ後ナデ、下位の砂粒を含む)	密(0.3~0.5mmの砂粒を含む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
29	第115図	No.37	Tr.11 4層	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 2.4	外面: 口頸部ナデ。胴部ハケ目 内面: ナデ	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 明黄褐~明赤褐色	外面赤塗りあり
30	第115図	No.35	Tr.11 4層	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.4	外面: ナデ、口縁部2条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: 橙色	
31	第115図	No.35	Tr.11 4層	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.7	外面: ナデ、口縁部2条の凹線 内面: ナデ	密	良好	外面: 灰黄褐~黄褐色 内面: 黄灰~浅黄色	
32	第115図	No.35	Tr.11 4層	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.4	外面: ナデ、口縁部2条の凹線 内面: ナデ	密	良好	外面: にぶい褐色 内面: 橙色	表面摩滅
33	第115図	No.43	Tr.11 6層	弥生土器 壺または甕	底部 1/4以下	底径: 5.2 器高: 3.2	外面: 胴部不明、底部ナデ 内面: 不明、わずかに指頭圧痕	密(長石、砂粒を多く含む)	良好	外面: にぶい褐色 内面: にぶい黄褐色	表面摩滅
34	第116図	No.38	Tr.4 耕作土	青磁 鉢?	口縁部 1/8以下	器高: 3.7	外面: 施釉 内面: 回転ナデ	密	良好	釉: 灰オリブ色 胎土: 灰白色	
35	第116図	No.38	Tr.4 耕作土	陶器 碗	体部 1/4以下	器高: 2.4	外面: 無釉。回転ナデ 内面: 施釉	密	良好	釉: オリブ灰色 胎土: 褐色	
36	第116図	No.38	Tr.4 耕作土	染付 碗	口縁部 1/8以下	器高: 4.2	外面: 施釉、染付 内面: 施釉	密	良好	釉: 明オリブ灰色 胎土: 灰オリブ色	
37	第116図	No.19	Tr.5 耕作土	陶器 碗	口縁部 1/8以下	器高: 2.2	内外面: 施釉	密	良好	釉: にぶい黄橙~灰黄褐色 胎土: 褐色	
38	第116図	No.13	Tr.6 耕作土	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.6	外面: ナデ。口縁部3条の凹線 内面: ナデ	密	良好	外面: 明黄褐色 内面: 明赤褐色	
39	第116図	No.20	Tr.6 耕作土	土師器 坏	底部 1/4以下	底径: 6.8 器高: 1.8	内外面: ナデ	密(砂粒を含む)	良好	内外面: 明赤褐色	
40	第116図	No.13	Tr.6 耕作土	土師器 坏	体~底部 1/4以下	高台径: 7.0 器高: 2.2	内外面: ナデ	密	良好	内外面: 明黄褐色	
41	第116図	No.13	Tr.6 耕作土	陶器 碗	底部 1/2弱	高台径: 5.0 器高: 2.5	外面: 体部回転ヘラケズリ。高台~底面回転ナデ 内面: 回転ナデ~不定方向のナデ	密(径1mm程度の砂粒含む)	良好	釉: 灰オリブ色 胎土外面: 褐灰~暗赤褐色 胎土内面: 灰黄褐~褐が点々と付着色	内面底部に胎土目痕と、釉が点々と付着
42	第116図	No.20	Tr.6 耕作土	土師器 鍋	口縁部 1/8以下	口径: 20.0 器高: 3.3	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ。体部ハケ目後回転ナデ	やや密	良好	内外面: 橙色	
43	第116図	No.13	Tr.6 耕作土	陶器 擂鉢	口縁部 完形	器高: 3.7	内面: 施釉。擂り目	密	良好	釉: にぶい赤褐色 胎土: 浅黄色	
44	第116図	No.55	Tr.10 耕作土	土師器 坏	体~底部 1/2~3/4	底径: 6.7 器高: 2.8	外面: 体部回転ナデ。底部回転系切り 内面: 体部回転ナデ。底部ナデ	密	良好	外面: 淡黄~浅黄色 内面: 浅黄色	
45	第116図	No.55	Tr.10 耕作土	土師器 坏	底部 1/4~1/2	底径: 6.6 器高: 1.3	外面: 体部回転ナデ。底部回転系切り 内面: 体部回転ナデ。底部ナデ	密	良好	内外面: 浅黄色	
46	第116図	No.55	Tr.10 耕作土	土師器 甕	口縁部 1/4以下	口径: 23.5 器高: 3.0	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部ヨコハケ後ナデ。胴部左方向へのケズリ	密(長石・石英を含む)	良好	内外面: にぶい橙色	
47	第116図	No.62	Tr.12 耕作土	土師器 坏	口縁~底部 1/4以下	口径: 10.0 底径: 7.6 器高: 2.7	内外面: ナデ	密(砂粒を含む)	良好	内外面: 明黄褐色	
48	第116図	No.64	Tr.12 3層(層)	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.3	外面: ナデ。口縁部2条の凹線文 内面: ナデ	密	良好	内外面: 明黄褐色	表面摩滅
49	第116図	No.64	Tr.12 3層(層)	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.5	外面: ナデ。口縁部浅い2条の凹線文 内面: ナデ	密	良好	内外面: 浅黄褐色	
50	第117図	No.19	Tr.5 耕作土	土玉	完形	最大径: 2.6 最大厚: 2.2 穿孔径: 0.5	内外面: ナデ	密	良好	内外面: 橙~にぶい橙色	

第5章 確認調査の概要

第11節 樋口第1遺跡の調査

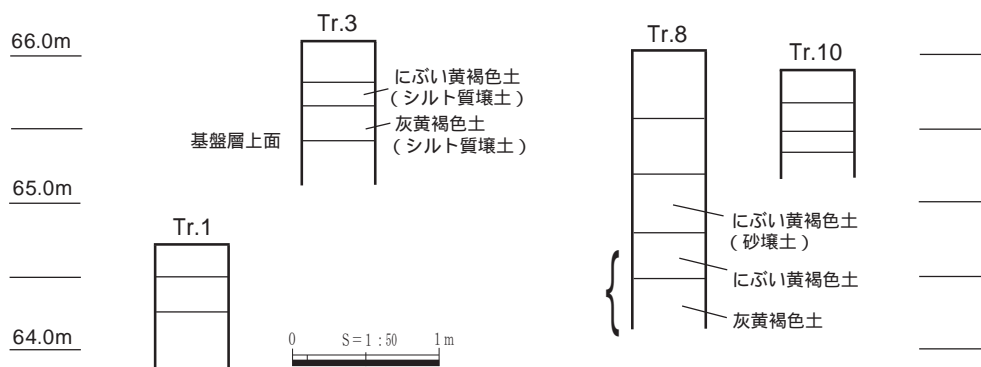
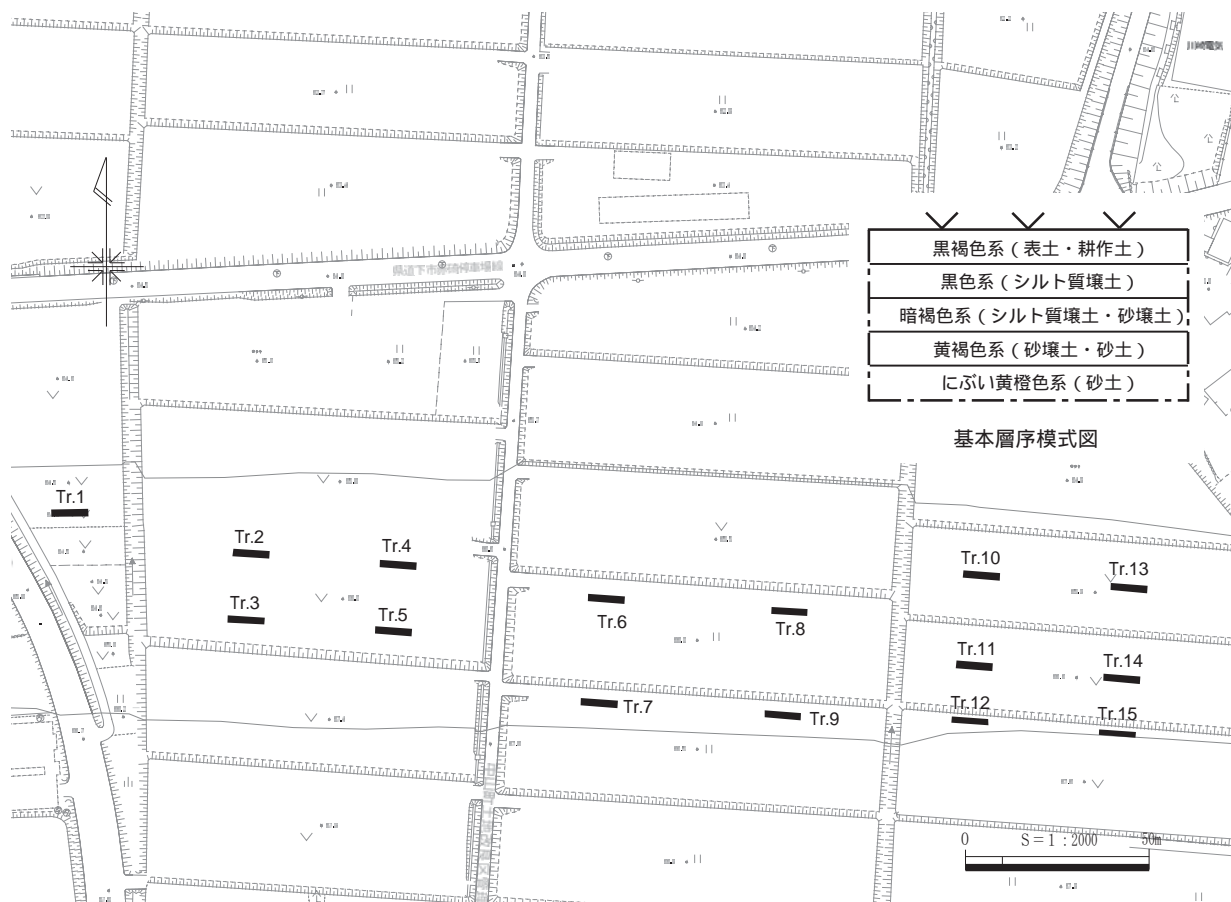
調査地点 大山町樋口442外

調査期間 平成21年4月27日～平成21年6月16日

調査面積 240m²

調査概要(第118図、表32、PL.40～43)

樋口第1遺跡は、樋口長田遺跡の東側に隣接して所在する。樋口第1遺跡も甲川によって形成された火山麓扇状地に立地しており、現地表面での標高は約65mである。調査地の地目は畑地で、1970年



第118図 トレンチ位置図および基本層序模式図

表32 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	土師器・弥生土器	弥生時代～中世?	-	-
Tr.2	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	青磁・勝間田焼・土師器・須恵器・弥生土器	弥生時代～中世	-	-
Tr.3	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	土師器・須恵器・石鏝	弥生時代? ～中世?	-	-
Tr.4	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	近世陶器・青磁・土師器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.5	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	陶器・青磁・勝間田焼・土師器・須恵器・弥生土器	弥生時代～近世	-	-
Tr.6	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	陶器・瓦・青磁・土師質土器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.7	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	陶器・瓦・土師質土器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.8	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	近世陶磁・瓦・土師器	中世～近世	-	-
Tr.9	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	近世陶磁・青磁・土師器・弥生土器・石鏝	弥生時代～近世	-	-
Tr.10	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	近世陶器・青磁・土師鍋・土師器・須恵器	古代?～近世	-	-
Tr.11	未調査	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.12	未調査	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.13	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	近世陶磁・青磁・土師器・弥生土器	弥生時代～近世	-	-
Tr.14	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	近世陶磁・青磁・土師器・弥生土器・砥石	弥生時代～近世	-	-
面積合計		240											

代に大規模な削平を伴う圃場整備が行われている。

開発予定地内に12本のトレンチを設定した(Tr.11・12はトレンチの設定はしたものの、実際の掘り下げは行わなかったため欠番となっている)。いずれのトレンチでも、遺構は確認していない。

調査地内の堆積は、すべてのトレンチで耕作土の直下に河川性堆積物層(扇状地堆積物層)が見られた。河川性堆積物層は大きく見て3層(基本層序～層)確認しており、いずれの層も礫を含んだシルト質または砂質の堆積物で、樋口長田遺跡の状況に類似している。これらの層から遺物は出土していない。

表土・耕作土、暗渠などの攪乱土からは、すべてのトレンチで比較的多数の遺物が出土している。遺物の帰属時期は弥生時代から近世までと広範にわたるものの、中世の遺物が主体となっている。したがって、中世を中心とした遺跡が存在していた可能性が高いが、圃場整備によって消滅してしまったものと思われる。

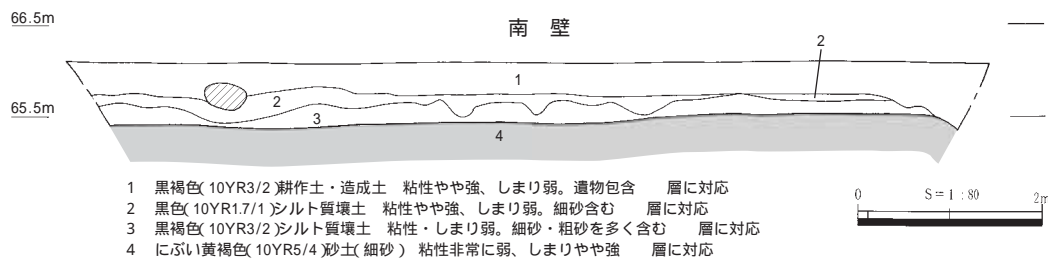
以上のことから、開発予定地内には遺跡は現存しないものと思われる。

以下、代表的な堆積を見せるトレンチについて報告を行う。なお、その他のトレンチの調査結果については表32を参照されたい。

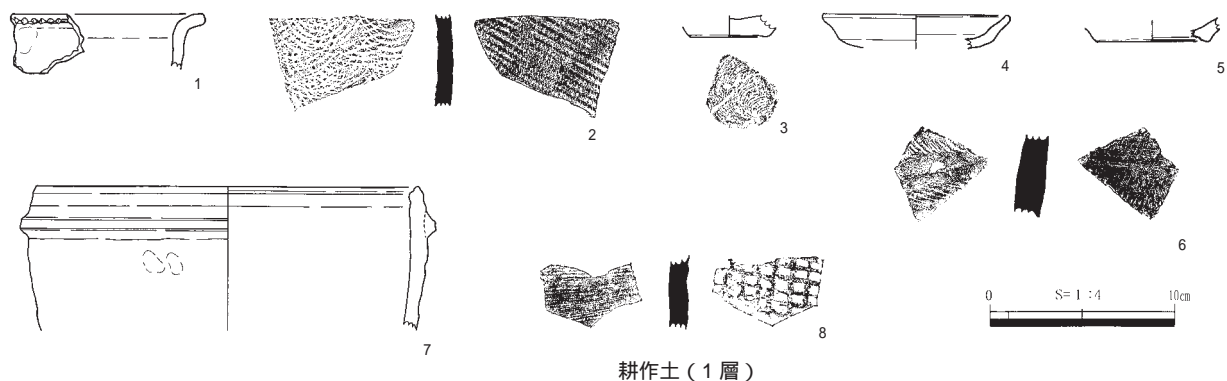
Tr.2(第119・120図、表34、PL.40・43)

調査地西部に設定した。1層が耕作土および圃場整備による造成土で、2層以下が河川性堆積物層である。2層が基本層序層に対応する黒色シルト質壤土、3層が基本層序層に対応する黒褐色シルト質壤土、4層が基本層序層に対応するしまりの強い粗砂層である。なお、いずれのトレンチとも層の検出をもって掘り下げを停止した。耕作土からは弥生土器、須恵器、土師器、勝間田焼、青磁などが出土した。1は弥生時代前期の甕口縁部片、2・6は須恵器甕、3・4は中世の土師器杯および皿、5は青磁碗、7は土師器鍋、8は勝間田焼甕片で、中世のものが中心となっている。

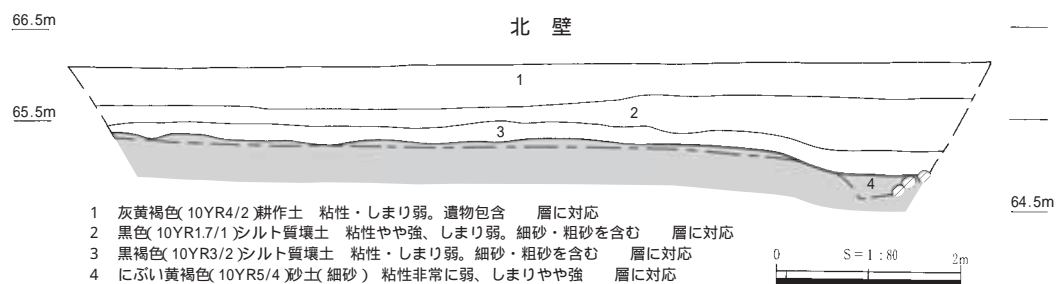
第5章 確認調査の概要



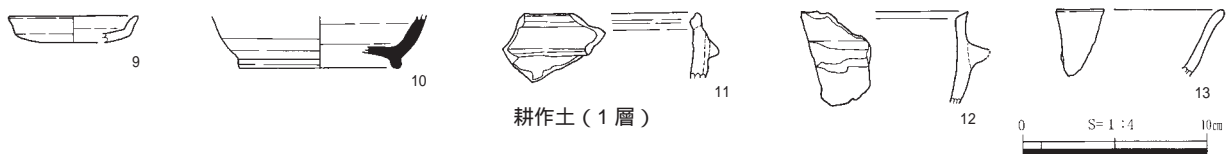
第119図 Tr. 2



第120図 Tr. 2 出土遺物



第121図 Tr. 4



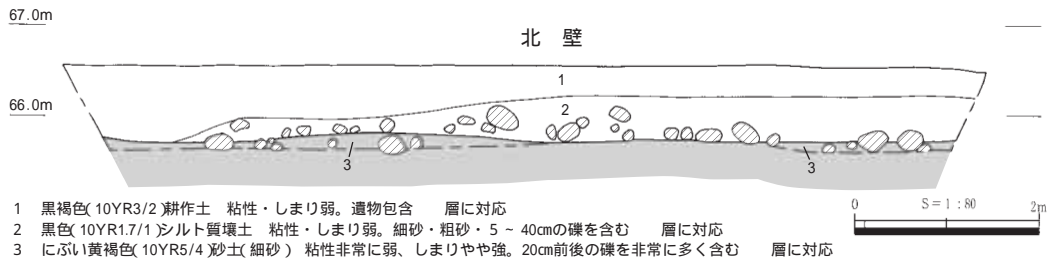
第122図 Tr. 4 出土遺物

Tr. 4(第121・122図、表34、PL.40・43)

調査地西部、Tr. 2の東30mの位置に設定した。Tr. 2と全く同じ堆積を確認しており、1層が耕作土で、2層以下が河川性堆積物である。耕作土からは土師器、須恵器、青磁などが出土しており、そのうちのいくつかを図示した。9は土師器小皿、10は須恵器坏、11は瓦質土器羽釜、12は土師器羽釜、13は青磁碗である。10は古代のもの、他は中世のものである。

Tr. 7(第123・124図、表34、PL.41・43)

調査地の中央付近に設定した。1層が耕作土、2層以下が河川性堆積物である。2層が基本層序層に対応する礫を多く含むシルト質壤土で、3層が基本層序層に対応する礫を非常に多く含む砂層である。耕作土からは土師器、須恵器、陶器、近世の瓦が出土しており、そのうちの3点を図示した。



第123図 Tr. 7



第124図 Tr. 7 出土遺物

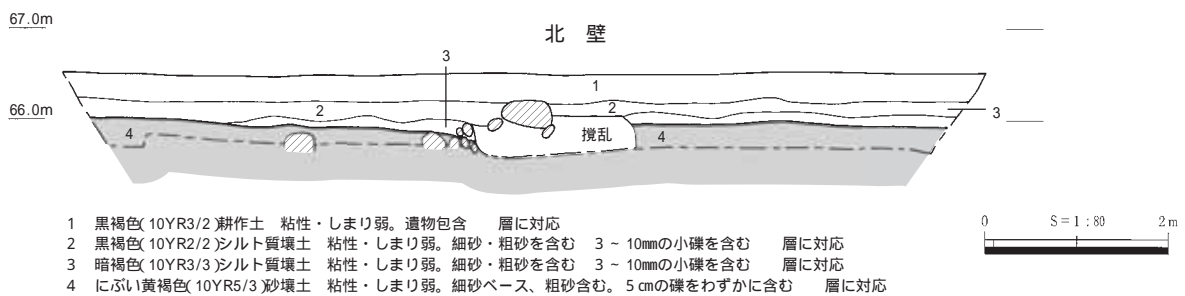
14は須恵器甕、15は須恵器坏、16は陶器壺で、14・15は古代のもの、16は中世のものと思われる。

Tr. 9(第125・126図、表33・34、PL.42・43)

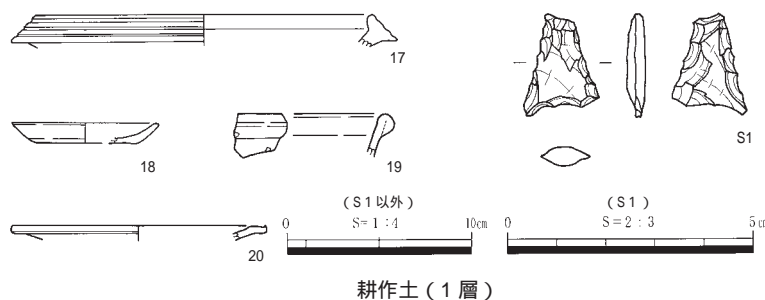
調査地の中央、Tr. 7の40m東に設定した。1層が耕作土、2層以下が河川性堆積物である。2層が基本層序 層に対応するシルト質壤土、3層が基本層序 層に対応するシルト質壤土、4層が基本層序 層に対応する砂層である。耕作土からは弥生土器、土師器、青磁、近世陶磁器、石鏃が出土している。そのうちいくつかを図示した。17は弥生時代中期後葉の甕口縁部片、18は中世の土師器小皿、19は青磁碗、20は青磁皿、S1は硬質安山岩製の石鏃である。

その他のトレンチ出土遺物(第127図、表33~35、PL.42・43)

その他のトレンチの耕作土からも弥生時代から近世までの遺物が出土している。そのうち代表的なものを図示した。量的に主体となるのは中世であるが、その他の時期の遺物も決して少なくない。特



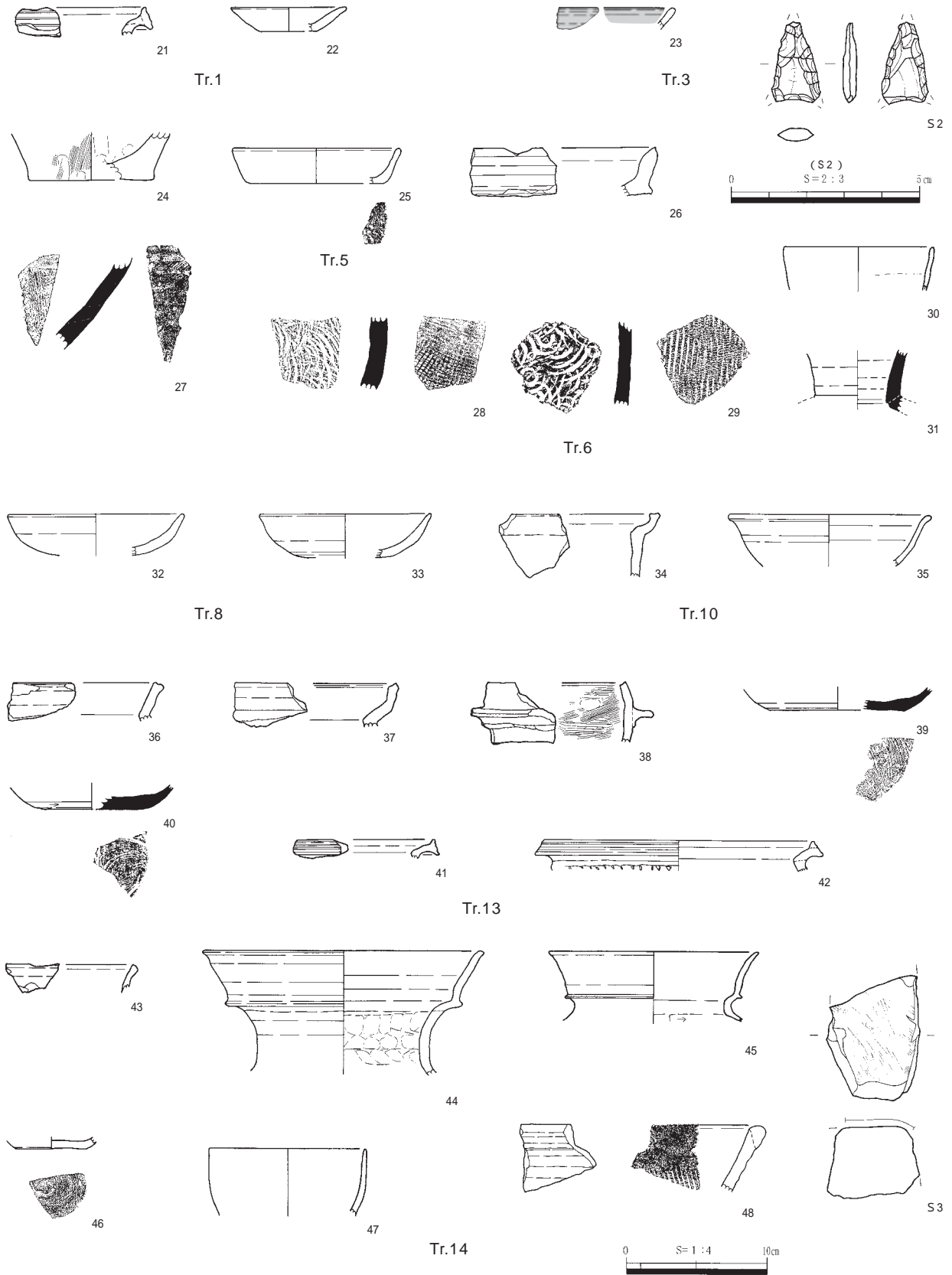
第125図 Tr. 9



第126図 Tr. 9 出土遺物

第5章 確認調査の概要

に、調査地東部のトレンチでは弥生時代の甕(42・45)や古墳時代前期の壺(44)の大型破片も見られることから、調査地東部近隣に当該期の遺跡が存在するか、かつて存在していた可能性もある。



第127図 その他のトレンチ出土遺物

表33 出土石器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	石材	法量				備考
						最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
S1	第126図	No.18	Tr.9 耕作土	石鏃	硬質安山岩	2.1	1.5	0.4	1.0	
S2	第127図	No.4	Tr.3 耕作土	石鏃	硬質安山岩	2.1	1.2	0.4	1.5	
S3	第127図	No.40	Tr.14 暗渠内	砥石	細粒花崗岩	8.6	6.4	5.4	437.5	砥石目が極めて細かい

表34 出土土器観察表(1)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第120図	No.2	Tr.2 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 3.2	外面: ナデ、口縁部下に指頭圧痕。 口縁端部に刺突具によるキザミ目 内面: ナデ	密(長石・石英を 少量含む)	良好	内外面: 明黄褐色	
2	第120図	No.7	Tr.2 耕作土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高: 5.0	外面: 擬格子目タタキ 内面: 同心円文当て具	密	良好	外面: 暗灰色 内面: 灰色	
3	第120図	No.3	Tr.2 耕作土	土師器 皿	底部 1/4 ~ 1/2	底径: 4.0 器高: 1.2	外面: 体部ナデ。底面回転糸切り 内面: ナデ、指頭圧痕	密	良好	外面: 黄褐色 内面: 褐色	
4	第120図	No.2	Tr.2 耕作土	土師器 坏	体部 1/8以下	口径: 10.0 器高: 1.8	外面: 体部回転ナデ。底部ナデ 内面: 回転ナデ	密	良好	内外面: にぶい褐色	
5	第120図	No.3	Tr.2 耕作土	青磁 碗	底部 1/4以下	底径: 6.0 器高: 1.3	外面: 施釉。ナデ 内面: 施釉	密	良好	釉: 灰オリーブ色 胎土: 灰オリーブ色	
6	第120図	No.2・3	Tr.2 耕作土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高:	外面: 平行タタキ後回転ナデ 内面: 同心円文当て具後回転ナデ	密	良好	外面: 暗灰黄色 内面: 灰黄色	
7	第120図	No.3	Tr.2 耕作土	瓦質土器 羽釜	口縁~体部 1/4以下	口径: 20.6 器高: 7.8	外面: 口縁~突帯部回転ナデ。突 帯より下位をナデ、指頭圧痕 内面: 回転ナデ	密(径1~2 mm程度の砂粒を含 む)	良好	外面: 灰~暗灰色 内面: にぶい黄褐色	外面スス付 着。内面鉄分 沈着
8	第120図	No.2	Tr.2 耕作土	勝間田焼 甕	胴部 1/8以下	器高: 4.1	外面: 格子目タタキ 内面: カキ目	密	良好	内外面: 暗灰色	
9	第122図	No.5	Tr.4 耕作土	土師器 小皿	口縁~底部 1/4以下	口径: 6.8 底径: 3.4 器高: 1.9	外面: ハケ目後ナデ 内面: ナデ	密	良好	内外面: 橙色	
10	第122図	No.5	Tr.4 耕作土	須恵器 坏	体~底部 1/4以下	高台径: 8.6 器高: 2.8	外面: 体部下位回転ヘラケズリ、 残り回転ナデ 内面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 緑灰色	
11	第122図	No.5	Tr.4 耕作土	瓦質土器 羽釜	口縁部 1/8以下	器高: 3.6	内外面: 回転ナデ	密(径0.5~1mm程 度の長石・石英を含 む)	良好	外面: 黒色 内面: 浅黄色	外面スス付 着
12	第122図	No.5	Tr.4 耕作土	土師器 羽釜	口縁~体部 1/8以下	器高: 4.9	内外面: 回転ナデ	密(径1~2mm程 度の長石を含む)	良好	内外面: 灰黄色	
13	第122図	No.5	Tr.4 耕作土	青磁 口縁部	口縁~体部 1/8以下	器高: 3.6	内外面: 施釉(貫入あり)	密	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 暗灰色	
14	第124図	No.14	Tr.7 耕作土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高: 5.3	外面: 擬格子目タタキ 内面: 同心円文当て具	密	良好	外面: 黒褐色 内面: 黄灰色	
15	第124図	No.14	Tr.7 耕作土	須恵器 坏	口縁部 1/8以下	器高: 2.4	外面: 回転ナデ、カキ目 内面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 灰色	
16	第124図	No.15	Tr.7 耕作土	陶器 壺	口縁部 1/4以下	口径: 7.8 器高: 2.1	外面: 回転ナデ 内面: 灰釉施釉	密	良好	釉: 灰褐色 胎土: 灰黄褐色	
17	第126図	No.21	Tr.9 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	口径: 18.3 器高: 1.8	外面: ナデ。口縁部3条の凹線 内面: ナデ	密(0.1mmの石英、 0.01mmの雲母を含 む)	良好	内外面: 明黄褐色	
18	第126図	No.21	Tr.9 耕作土	土師器 小皿	口縁~底部 1/8以下	口径: 7.8 底径: 5.6 器高: 1.1	外面: 体部回転ナデ。底面静止糸 切り内面: 体部回転ナデ。底部ナ デ	密	良好	内外面: にぶい黄橙 色	
19	第126図	No.18	Tr.9 耕作土	青磁 碗	口縁部 1/8以下	器高: 2.3	外面: 施釉。玉縁口縁 内面: 施釉	密	良好	釉: 明オリーブ灰色 胎土: 灰色	
20	第126図	No.21	Tr.9 耕作土	青磁 皿	口縁部 1/8以下	口径: 11.8 器高: 1.2	外面: 施釉。回転ナデ 内面: 施釉	密	良好	釉: オリーブ灰色 胎土: 灰色	
21	第127図	No.1	Tr.1 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 2.0	外面: ナデ。口縁部3条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄橙 色	表面摩滅
22	第127図	No.1	Tr.1 耕作土	土師器 皿	口縁~底部 1/8以下	口径: 8.3 底径: 4.1 器高: 1.7	内外面: 回転ナデ	密	良好	内外面: にぶい褐色	表面摩滅
23	第127図	No.8	Tr.3 耕作土	土師器 皿か	口縁部 1/8以下	器高: 1.6	内外面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 赤褐色	内外面赤色塗 彩
24	第127図	No.9	Tr.5 耕作土	弥生土器 壺または甕	底部 1/4 ~ 1/2	底径: 8.6 器高: 3.3	外面: 体部ハケ目後ナデ。底面ナ デ 内面: ケズリ後ナデ、指頭圧痕	密(0.2mm程度の長 石、0.5mm程度の礫 を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黒色	内面スス付 着

第5章 確認調査の概要

表35 出土土器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量(cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
25	第127図	No.11	Tr.5 耕作土	土師器 坏	口縁～底部 1/4以下	口径： 11.8 底径： 9.4 器高： 2.5	外面：体部回転ナデ。底面静止糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：にぶい橙色	外面やや摩滅
26	第127図	No.11	Tr.5 耕作土	陶器 甕	口縁部 1/8以下	器高： 3.4	内外面：回転ナデ	密(0.3～1mm程度の礫を含む)	良好	外面：赤褐色 内面：赤灰色	
27	第127図	No.11	Tr.5 耕作土	須恵器 播鉢	口縁～体部 1/8以下	器高： 6.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、播り目	密	良好	内外面：灰色	
28	第127図	No.12	Tr.6 耕作土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高： 5.1	外面：擬格子目タタキ後、一部ナデ 内面：同心円文当て具	密	良好	内外面：灰色	
29	第127図	No.13	Tr.6 耕作土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高： 5.9	外面：平行タタキ後、一部カキ目 内面：同心円文当て具	密	良好	内外面：灰色	
30	第127図	No.12	Tr.6 耕作土	青磁 碗	口縁部 1/8以下	口径： 10.4 器高： 3.1	内外面：施釉	密	良好	釉：オリーブ灰色 胎土：灰色	
31	第127図	No.12	Tr.6 耕作土	須恵器 壺	頸部 1/4～1/2	器高： 4.2	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	
32	第127図	No.19・20	Tr.8 耕作土	土師器 坏	口縁～体部 1/4以下	口径： 12.0 器高： 3.1	外面：口縁部回転ナデ。体部回転ヘラケズリ後ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ。体部下半ナデ	密(径1～1.5mm程度の砂粒を含む)	良好	内外面：橙～にぶい橙色	
33	第127図	No.19	Tr.8 耕作土	土師器 坏	口縁～体部 1/4～1/2	口径： 12.4 器高： 3.0	外面：体部上位回転ナデ。下位ケズリ後ナデ 内面：体部回転ナデ。底部ナデ	密(砂粒含む)	良好	内外面：明赤褐色	
34	第127図	No.24	Tr.10 耕作土	土師器 鍋	口縁部 1/8以下	器高： 4.5	内外面：ナデ	密	良好	内外面：灰黄褐色	外面と内面口縁部にスス付着
35	第127図	No.24	Tr.10 耕作土	青磁 碗	口縁～体部 1/4以下	口径： 14.0 器高： 3.7	内外面：施釉	密	良好	釉：明オリーブ灰色 胎土：灰色	
36	第127図	No.51	Tr.13 耕作土	土師器 鍋	口縁部 1/8以下	器高： 2.7	外面：回転ナデ。口縁端部に1条の凹線 内面：回転ナデ	密(径1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐～暗褐色	
37	第127図	No.48	Tr.13 耕作土	土師器 鍋	口縁部 1/8以下	器高： 3.1	外面：不明 内面：ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	表面摩滅
38	第127図	No.51	Tr.13 耕作土	瓦質土器 羽釜	口縁部 1/8以下	器高： 4.3	外面：口縁～突帯回転ナデ。体部ナデ 内面：ヨコ・ナナメ方向の細かいハケ目。指頭圧痕	密(径1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	外面：黄灰色 内面：暗灰黄色	外面スス付着
39	第127図	No.51	Tr.13 耕作土	須恵器 坏	底部 1/4以下	底径： 9.6 器高： 1.7	外面：体部回転ナデ。底面静止糸切り 内面：体部回転ナデ。底部ナデ	密(径1mm程度の白色砂粒を少し含む、5mm程度の礫を含む)	良好	内外面：灰色	
40	第127図	No.38	Tr.13 耕作土	須恵器 坏	体～底部 1/2～3/4	底径： 8.0 器高： 1.7	外面：体部回転ナデ～回転ヘラケズリ。底面回転糸切り 内面：体部回転ナデ。底部不定方向ナデ	密	良好	内外面：暗緑灰色	
41	第127図	No.54	Tr.13 暗渠内	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	器高： 1.3	外面：ナデ。口縁部3条の凹線 内面：ナデ	密	良好	外面：にぶい黄褐～灰黄褐色、一部明褐色 内面：明黄褐色、一部黒褐色	
42	第127図	No.54	Tr.13 暗渠内	弥生土器 甕	口縁部 1/4以下	口径： 19.2 器高： 2.2	外面：ナデ。口縁部3条の沈線 内面：ナデ	密	良好	外面：浅黄橙～黄橙色 内面：浅黄橙色	
43	第127図	No.34	Tr.14 耕作土	青磁 碗	口縁部 1/8以下	器高： 2.0	内外面：施釉	密	良好	釉：オリーブ灰色 胎土：灰色	
44	第127図	No.38	Tr.14 暗渠内	土師器 壺	口縁～頸部 1/4～1/2	口径： 17.4 器高： 8.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ。頸部ナデ、指頭圧痕	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
45	第127図	No.40	Tr.14 暗渠内	弥生土器 甕	口縁部 1/4～1/2	口径： 14.9 器高： 5.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ。胴部ケズリ後ナデ、指頭圧痕	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	外面スス付着
46	第127図	No.40	Tr.14 暗渠内	土師器 坏	底部 1/4以下	底径： 5.0 器高： 0.8	外面：体部回転ナデ。底面回転糸切り 内面：底部中央ナデ、残り回転ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
47	第127図	No.40	Tr.14 暗渠内	青磁 碗	口縁～体部 1/4以下	口径： 9.8 器高： 4.5	内外面：施釉(貫入あり)	密	良好	釉：オリーブ黄色 胎土：	
48	第127図	No.40	Tr.14 暗渠内	陶器 播鉢	口縁～体部 1/8以下	器高： 4.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、播り目	密(径1mm程度の砂粒を含む)	良好	外面：暗褐色 内面：褐～暗褐色	

第12節 樋口西野末遺跡の調査

調査地点 大山町八重862 - 3 外

調査期間 平成21年 5月25日～平成21年 6月27日

調査面積 112m²

調査概要(第128図、表36、PL.44～45)

樋口西野末遺跡は、大山から北に派生する丘陵の西側緩傾斜面上に位置する。現地表面での標高は約68～70mであり、地目は畑地である。確認調査の対象地の東側にあたる丘陵頂部から東側傾斜面にかけても遺跡の範囲に含まれており、この範囲については平成21年度の本調査の対象となった(第3章参照)。



第128図 トレンチ位置図および基本層序模式図

第5章 確認調査の概要

表36 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.16	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	1層 (層)	土師器・須恵器	古墳時代? ~ 古代	-	-
Tr.17	2 × 15	30	SS 1	土師器・須恵器	古代	-	-	-	1層 (層)	土師器・須恵器 青磁・羽釜	古代・中世	1面	3層上面
Tr.18	2 × 17	34	SD 1	土師器・須恵器	古代	-	-	-	1層 (層)	土師器・須恵器 染付	古代・近世	1面	3層上面
Tr.19	2 × 14	28	SD 1	土師器・須恵器	古代	-	-	-	1層 (層)	土師器・須恵器 青磁	古墳時代? ~ 中世	1面	3層上面
面積合計		112											

調査は、開発予定地内に、4本のトレンチを設定して行った。基本層序は、上層から順に、層が表土または耕作土、層がクロボク、層以下が基盤層で、層が層と層の漸移層、層がいわゆるソフトローム層、層が礫を多く含む黄褐色系土で、火砕流の再堆積層である。

調査地は、圃場整備の際に大規模な造成がなされていたが、調査の結果、遺構検出面を1面確認し、溝1条と加工段1基を検出した。溝SD1は、Tr.18とTr.19において検出され、ほぼ北西 - 南東方向に延びる。加工段SS1はTr.17で検出され、その西側が谷となることから、旧地形における丘陵の最西端に当たり、これより西側は谷に落ち込むと考えられる。Tr.17の西に設定したTr.16では、約2m掘り下げた位置まで厚く客土が堆積するとともに、水が湧き出しており、Tr.17からの谷の続きと推定されたことから、この時点で完掘は断念した。

遺物は、SD1やSS1の埋土中より、古代の須恵器や赤彩を含む土師器が多く出土したほか、表土中から、弥生土器、中近世の土師質鍋・羽釜、陶磁器類(青磁・染付)が出土した。

以上のことから、本調査地内には遺跡が現存すると判断した。

以下、遺構を検出したトレンチについて報告をおこなう。なお、各トレンチの概要については表36を参照されたい。

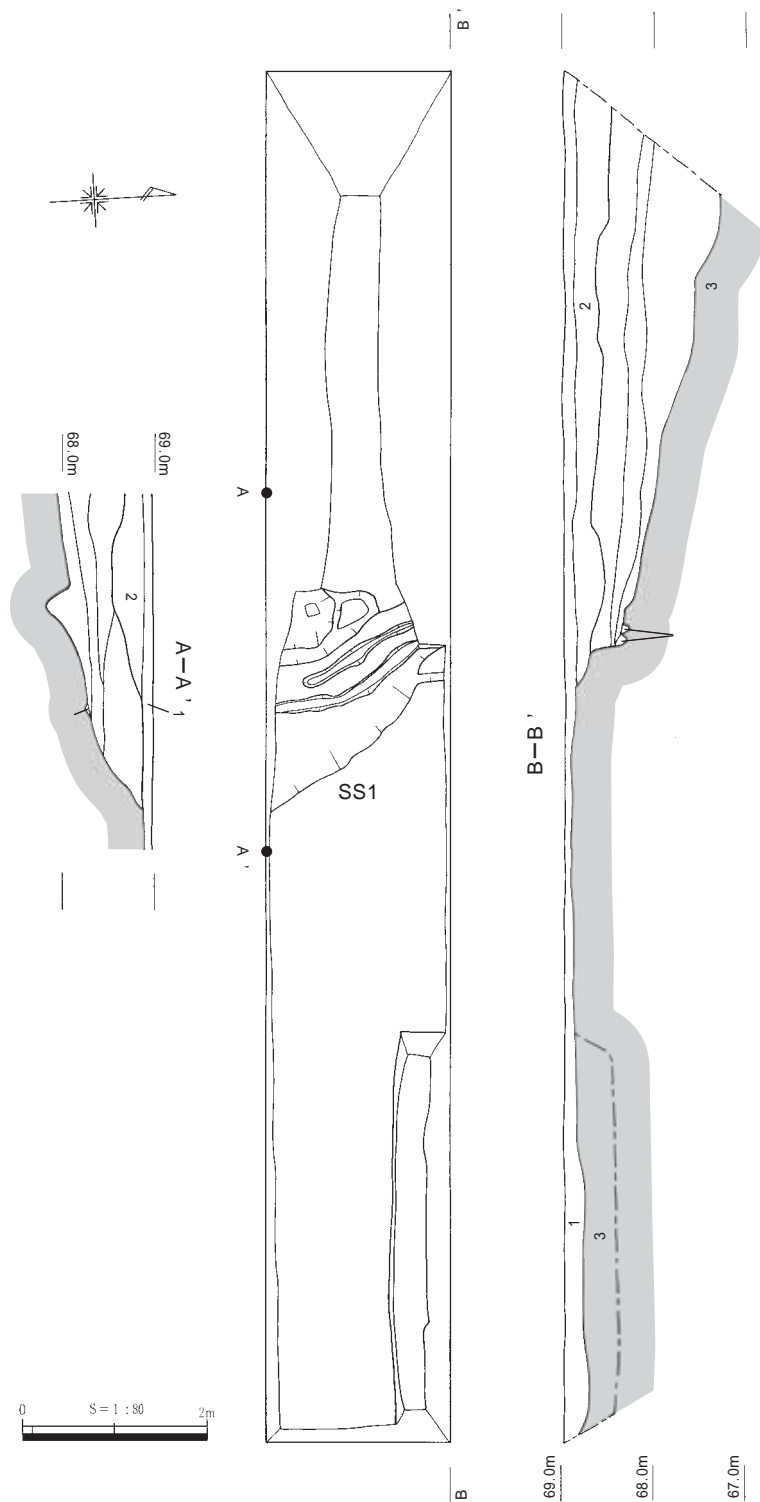
Tr.17(第129・130図、表37、PL.44・45)

調査地中央付近の畑地平坦面上に、東西方向に2×15mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約69mである。1層は基本層序の層、3層は基本層序の層に相当し、3層が基盤層となる。2層は造成土で、トレンチ西側から6～7mの範囲に堆積していた。2層の下層は、加工段(SS1)の埋土で、クロボク起源の黒色土が、上層から層、層の順に堆積していた。さらに、層の下層では、しまりの強い黒褐色土または暗褐色土からなる～層の埋土が堆積していた。SS1の西側は緩傾斜しており、トレンチ西端での深さは約1.7mとなることから、そのまま谷に落ち込むと考えられた。

SS1は、規模は不明であるが、底面の東端部分に狭い平坦面が幅60cm程度残っており、この平坦面上には、幅約15cm、深さ約10cmの小溝2条が検出された。この加工段の性格は不明であるが、SS1および谷部の埋土中からは、少量の弥生土器片(1)のほか、須恵器甕片(2)、土師器甕(3～5)など古代の遺物が多く出土したことから、遺構の埋没時期は古代以降と考えられる。

Tr.18(第131図、表37、PL.44・45)

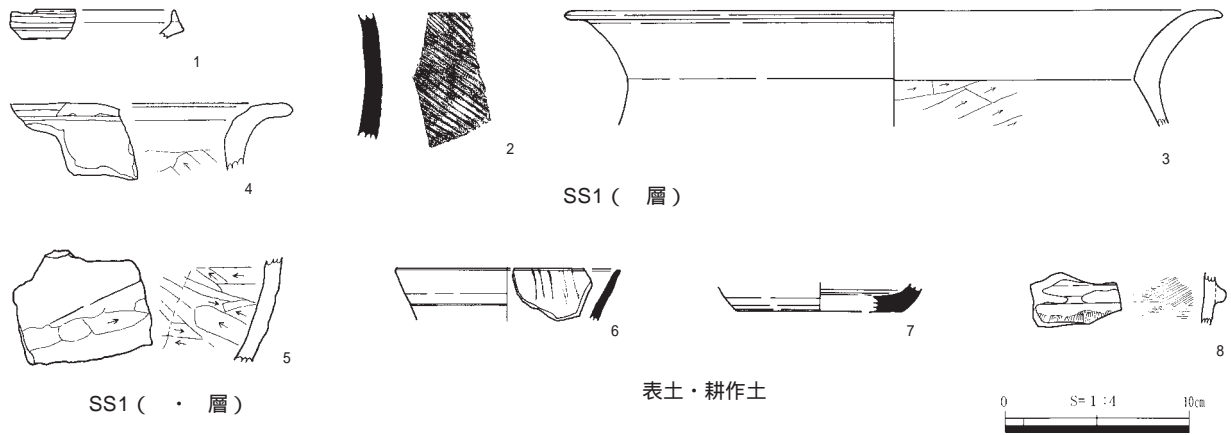
Tr.17の東側の畑地平坦面上に東西方向に2×10mのトレンチを設定した。現地表面での標高は約70mである。1層は基本層序の層、2層は基本層序の層にそれぞれ相当する。3層以下は基盤層



- 1 黒褐色(10YR3/2)表土・耕作土 粘性弱、しまりやや強。遺物包含 層に対応
 - 2 褐色(10YR4/4)造成土 粘性弱、しまりやや強。3層中心で構成される。遺物包含
 - 3 黄褐色(10YR5/6)粘性弱、しまりやや強。細砂ベース。0.5～15cmの礫を非常に多く含む 層に対応
- SS1
- 黒色(10YR1.7/1)粘性やや強、しまり弱。クロボク起源か。1～5mmの地山小礫をわずかに含む
 - 黒色(10YR1.7/1)粘性やや強、しまり弱。クロボク起源か。シルトを含む。1～20mmの地山礫を多く含む。遺物包含
 - 黒褐色(10YR3/1)粘性やや強、しまり強。シルト含む。1～20mmの地山礫を非常に多く含む。遺物包含
 - 暗褐色(10YR3/3)粘性弱、しまり強。シルト含む。1～20mmの地山礫を非常に多く含む。遺物包含
 - 暗褐色(10YR3/4)粘性弱、しまりやや強。細砂含む。1～20mmの地山礫を非常に多く含む。 層に類似

第129図 Tr.17

第5章 確認調査の概要



第130図 Tr.17出土遺物

であり、3層は基本層序の 層、4層は基本層序の 層、5層は基本層序の 層にそれぞれ相当する。後世の削平のため、2層はほとんど残存しておらず、1層の下は大部分が地山となっていた。

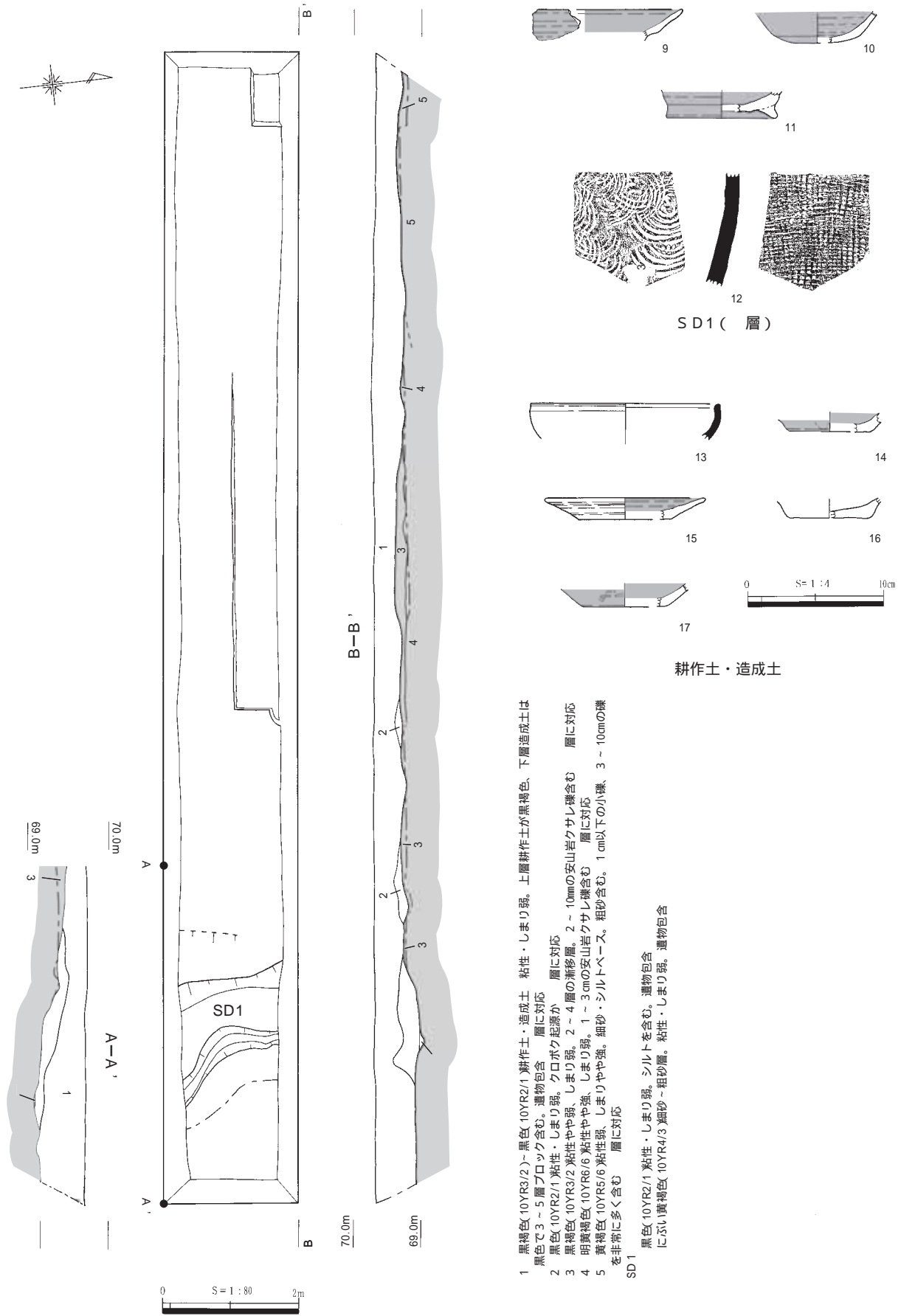
トレンチの東側を7m拡張したところ、溝状遺構(SD1)を検出した。SD1の埋土は、 層と 層からなり、 層はクロボク起源の黒色土が約30cm堆積し、 層は細砂および粗砂からなる砂層が堆積していたことから、流水をともなったと考えられる。遺物は、 層で出土しており、赤彩土師器の坏(9・10)や高台坏(11)のほか、須恵器甕片(12)があり、古代に位置づけられる。

Tr.19(第132図、表37・38、PL.44・45)

Tr.18の北側12mの地点に、Tr.18に平行する形で東西方向に2×14mのトレンチを設定した。Tr.18と同様、1層から5層まで、それぞれ基本層序の 層から 層に相当する堆積がみられた。3層以下は基盤層となる。トレンチ西端から約2m東側の位置で溝状遺構を検出した。溝状遺構の埋土は、 層は黒色土が約20cm堆積し、 層は砂層が堆積しており、古代を中心とする遺物が集中して出土することから、Tr.18と一連の遺構、すなわちSD1と考えられた。

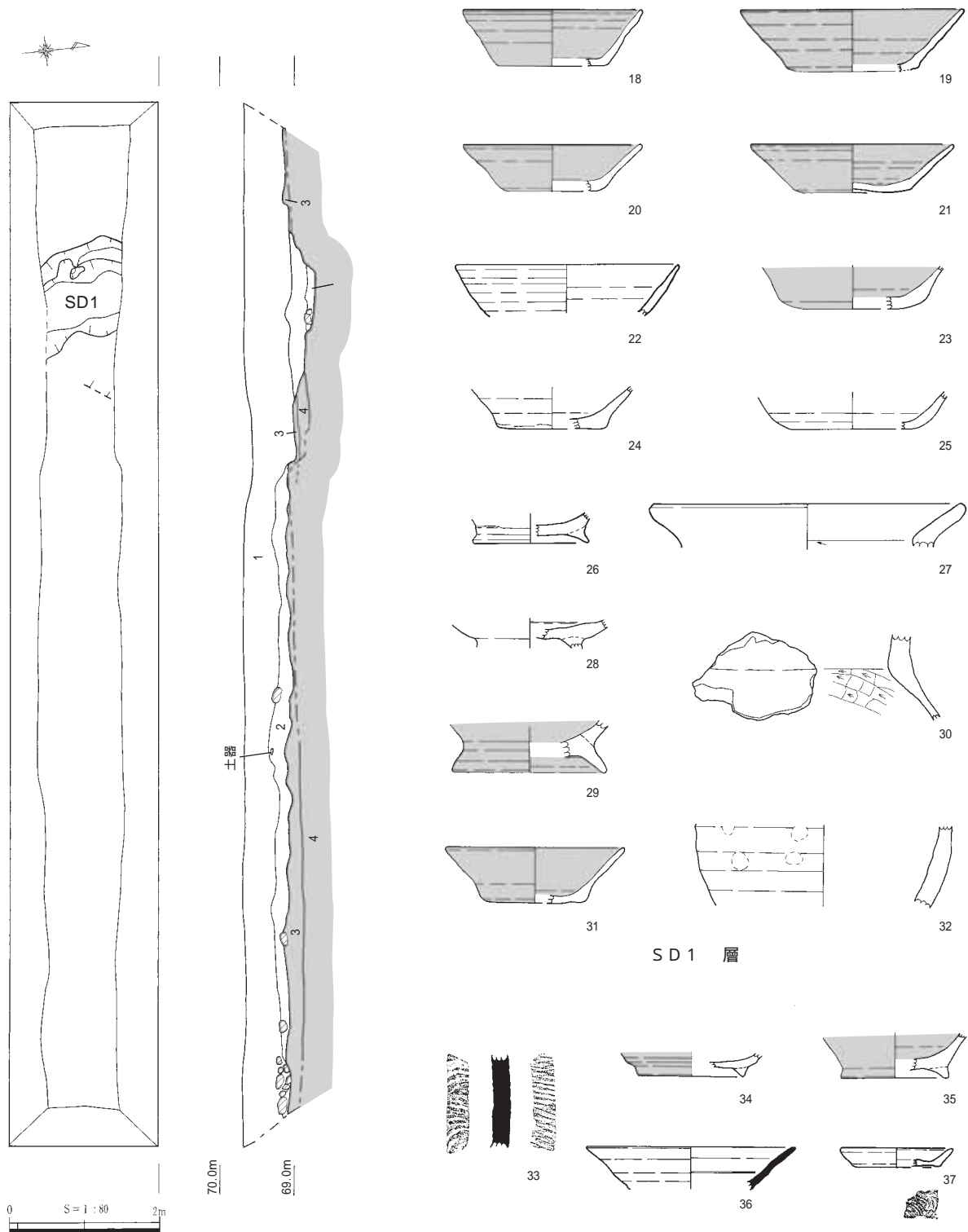
SD1は、ほぼ北西-南東方向に延びる溝で、幅約2m、深さ35～45cm程度である。SD1の断面をみると、20～30cmの深さで一度平坦面となり、その中央には、Tr.18で幅約30cm、Tr.19で幅約90cmの細い溝が入る。Tr.18とTr.19のいずれのトレンチにおいても、この細い溝中に 層の砂層が堆積していたことから、流路としての機能をもつと考えられた。

出土遺物は、両トレンチとも 層で集中しており、同時期の土器相を示している。Tr.19では、赤彩土師器の坏(18・21・23・31)や高台坏(29)のほか、土師器の坏(19・22・24・26・28)・甕(27・30・32)などが出土しており、古代に位置づけられる。遺構の性格としては、遺物が流れ込みなのか、廃棄されたものなのかによって解釈は異なるが、赤彩土師器が多いことから、祭祀的な性格をもつ遺構に伴う溝の可能性もあるが、詳細は本調査の結果を待ちたい。



第131図 Tr.18

第5章 確認調査の概要



- 1 黒褐色(10YR3/2)~黒色(10YR2/1)耕作土・造成土 粘性・しまり弱。上層耕作土が黒褐色、下層造成土は黒色で3~5層ブロック含む。遺物包含 層に対応
 - 2 黒色(10YR2/1)粘性・しまり弱。クロボク起源か 層に対応
 - 3 黒褐色(10YR3/2)粘性やや弱、しまり弱。2~4層の漸移層。2~10mmほどの安山岩クサレ礫含む 層に対応
 - 4 明黄褐色(10YR6/6)粘性やや強、しまり弱。1~3cmの安山岩クサレ礫含む 層に対応
 - 5 黄褐色(10YR5/6)粘性弱、しまりやや強。細砂・シルトベース。粗砂を含む。1cm以下の小礫、3~10cmの礫非常に多く含む 層に対応
- SD1
 黒色(10YR2/1)粘性・しまり弱。シルトを含む 遺物包含
 にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂~粗砂層。粘性・しまり弱 遺物包含

耕作土・造成土

第132図 Tr.19

表37 出土土器観察表(1)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ遺構・層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第130図	No.45	Tr.17 SS1 層	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	器高: 1.5	外面: ナデ。口縁部3条の凹線 内面: ナデ	密(径1mm程度の砂粒を含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	
2	第130図	No.45	Tr.17 SS1 層	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高: 6.8	外面: 平行タタキ 内面: ナデ	密	良好	内外面: 黄灰色	
3	第130図	No.43	Tr.17 SS1 層	土師器 甕	口頸部 1/8以下	口径: 33.4 器高: 6.3	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ。胴部ヘラケズリ	密	良好	内外面: にぶい褐色	
4	第130図	No.45	Tr.17 SS1 層	土師器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 3.8	外面: 回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ~ナデ。胴部ケズリ	密	良好	内外面: 明褐色	
5	第130図	No.39	Tr.17 SS1 層	土師器 甕	胴部 1/8以下	器高: 6.2	外面: ケズリ、指頭圧痕あり 内面: ヘラケズリ	密(径1~2mm程度の石英・砂粒を含む)	良好	内外面: 橙~灰褐色	
6	第130図	No.55	Tr.17 表土・耕作土	須恵器 坏	口縁部 1/4以下	口径: 12.1 器高: 2.8	内外面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 灰色	内面に火押状の痕跡
7	第130図	No.36	Tr.17 表土・耕作土	須恵器 壺か	底部 1/4~1/2	底径: 9.0 器高: 1.6	外面: 体部回転ヘラケズリ。底面静止ヘラケズリ 内面: 体部回転ナデ。底部ナデ	密	良好	内外面: 青灰色	
8	第130図	No.55	Tr.17 表土・耕作土	土師質土器 羽釜	胴部 1/8以下	器高: 2.6	外面: 突帯付近ナデ。ハケメ 内面: ハケメ	密	良好	内外面: 浅黄橙色	
9	第131図	No.31	Tr.18 SD1 層	土師器 坏	口縁部 1/8以下	器高: 2.3	内外面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 橙色	内外面に赤色塗彩あり
10	第131図	No.31	Tr.18 SD1 層	土師器 坏	底部 1/4以下	底径: 6.4 器高: 2.2	内外面: 体部回転ナデ。底部ナデ	密(0.2~1mm程度の長石・石英を含む)	良好	外面: にぶい黄橙~橙色 内面: 橙色	内外面に赤色塗彩あり(外底面なし)
11	第131図	No.31	Tr.18 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	高台径: 7.6 器高: 2.0	内外面: ヨコナデ	密	良好	内外面: 浅黄褐色	内外面と高台内側の一部に赤色塗彩あり
12	第131図	No.30	Tr.18 SD1 層	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高: 8.3	外面: 擬格子目タタキ 内面: 同心円文当て具	密	良好	内外面: 灰色	
13	第131図	No.29	Tr.18 耕作土・造成土	須恵器 坏	口縁~体部 1/8以下	口径: 13.8 器高: 2.6	外面: 回転ナデ。口唇部下に1条の沈線 内面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 灰色	
14	第131図	No.29	Tr.18 耕作土・造成土	土師器 坏	底部 1/8以下	底径: 6.0 器高: 1.4	外面: ナデ。体部に指頭圧痕 内面: 回転ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄橙~明褐色	内外面に赤色塗彩あり
15	第131図	No.29	Tr.18 耕作土・造成土	土師器 皿	口縁~底部 1/8以下	口径: 11.4 底径: 6.4 器高: 1.6	内外面: 回転ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄橙色	内面と、外面の一部に赤色塗彩あり
16	第131図	No.29	Tr.18 耕作土・造成土	土師器 坏	底部 1/4以下	底径: 5.8 器高: 1.6	内外面: ナデ	密	良好	外面: にぶい黄橙色 内面: にぶい橙色	
17	第131図	No.27	Tr.18 耕作土・造成土	土師器 坏	底部 1/4以下	底径: 6.0 器高: 1.7	外面: 体部かすかにミガキ。底面ナデ 内面: ミガキ	密	良好	内外面: 明赤褐色	内外面に赤色塗彩あり
18	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁~底部 1/4以下	口径: 11.8 底径: 7.2 器高: 3.8	内外面: 体部回転ナデ。底部ナデ	密	良好	内外面: にぶい赤褐~橙色	内外面に赤色塗彩あり
19	第132図	No.40	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁~底部 1/4以下	口径: 14.8 底径: 8.8 器高: 4.2	外面: 体部回転ナデ。底部ナデ 内面: 体部回転ナデ。底部不明	密(0.2~3mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	外面: にぶい橙~にぶい赤褐色	内外面に赤色塗彩あり
20	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁~底部 1/4以下	口径: 11.8 底径: 7.1 器高: 3.1	外面: 体部回転ナデ。底部ナデ 内面: 回転ナデ	密	良好	外面: 灰褐~にぶい橙色 内面: 橙~黒色	内外面に赤色塗彩、スス付着
21	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁~底部 1/4~1/2	口径: 13.2 底径: 6.0 器高: 3.2	内外面: 体部回転ナデ。底部ナデ	密	良好	内外面: 橙~黒褐色	内外面に赤色塗彩あり(外底面なし)

第5章 確認調査の概要

表38 出土土器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ遺構・層位	種類器種	部位残存率	法量(cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
22	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁～体部 1/4以下	口径：14.8 器高：3.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄 橙色	
23	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	体～底部 1/4以下	底径：9.4 器高：2.9	内外面：体部回転ナデ。底 部ナデ	密	良好	内外面：浅黄橙色	内外面に赤色塗彩 あり
24	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	体～底部 1/4以下	底径：7.2 器高：2.8	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：橙色	
25	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	体～底部 1/4以下	底径：8.8 器高：2.5	外面：体部回転ナデ。底面 ヘラ切り後ナデ 内面：体部回転ナデ。底部 ナデ	密	良好	外面：橙～にぶい 橙色 内面：橙色	
26	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	高台径：7.6 器高：2.1	外面：体部～高台回転ナデ。 底面ナデ 内面：ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄 橙色	
27	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 甕	口縁部 1/4以下	口径：26.2 器高：3.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケ ズリ	密(微砂を含む)	良好	外面：褐色 内面：黒褐色	外面にスス付着
28	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	器高：2.0	外面：体部～高台回転ナデ。 底面ヘラ切り後ナデ 内面：ナデ	密(径1～2mm程 度の砂粒を含む)	良好	内外面：橙色	
29	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	高台径：10.0 器高：3.2	外面：体部回転ナデ。高台 ミガキ 内面：底部ナデ、ミガキ。 高台回転ナデ、ナデ	密	良好	内外面：にぶい橙 色	内外面に赤色塗彩 あり
30	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 甕	頸～胴部 1/4以下	器高：5.7	外面：ナデ 内面：頸部ナデ。胴部ヘラ ケズリ	密	良好	内外面：明褐色	
31	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁～底部 1/4～1/2	口径：11.6 底径：6.4 器高：3.7	内外面：体部回転ナデ。底 部ナデ	密	良好	内外面：にぶい橙 ～赤色	内外面に赤色塗彩 あり
32	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 甕か	胴部 1/8以下	器高：5.4	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：明褐色	内面の一部に赤色 顔料が付着
33	第132図	No.37	Tr.19 耕作土・造成土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高：6.2	外面：擬格子目タタキ 内面：同心円文当て具	密	良好	内外面：灰色	意図的に破碎して 再利用したか
34	第132図	No.49	Tr.19 耕作土・造成土	土師器 高台坏	底部 1/4～1/2	高台径：6.8 器高：1.6	外面：体部～高台回転ナデ。 底部ナデ 内面：体部回転ナデ。底部 ナデ	密	良好	外面：明褐色～淡 褐色 内面：暗褐色	外面体部～高台赤 色塗彩
35	第132図	No.49	Tr.19 耕作土・造成土	土師器 高台坏	底部 1/4	高台径：7.0 器高：2.9	外面：回転ナデ 内面：ナデ	密	良好	内外面：橙色	内外面に赤色塗彩
36	第132図	No.37	Tr.19 耕作土・造成土	須恵器 坏	口縁部 1/4以下	口径：13.8 器高：2.8	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：灰黄色 内面：灰白色	
37	第132図	No.43	Tr.19 耕作土・造成土	土師器 皿	口縁～底部 1/4以下	口径：7.4 底径：6.0 器高：1.3	外面：口縁～体部回転ナデ。 底面回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：浅黄橙～灰 黄褐色 内面：にぶい橙色	